

令和 6 年 10 月 入 学

令和 7 年 4 月 入 学 (第 1 次・第 2 次募集)

三重大学大学院生物資源学研究科

(博士前期課程)

学 生 募 集 要 項

三 重 大 学

目 次

○ 入学者受入方針(アドミッションポリシー)

○ 令和6年10月入学

1. 募集人員	2
2. 出願期間, 試験日, 合格発表	3
3. 選抜の方法	3
4. 出願資格	5
5. 出願資格審査について	8
6. 出願書類等	9
7. 入学手続	11
8. 入学料および授業料	11
9. 高等学校教諭専修免許状について	11
10. 注意事項	11
一般選抜 出願資格(10)外国人留学生特別選抜 出願資格(10)による入学志願者の 選抜について	12

○ 令和7年4月入学(第1次・第2次募集)

1. 募集人員	14
2. 出願期間, 試験日, 合格発表	15
3. 選抜の方法	16
4. 出願資格	17
5. 出願資格審査について	20
6. 出願書類等	21
7. 入学手続	23
8. 入学料および授業料	23
9. 高等学校教諭専修免許状について	23
10. 注意事項	23
一般選抜 出願資格(10)外国人留学生特別選抜 出願資格(10)による入学志願者の 選抜について	24

○ 令和6年10月入学・令和7年4月入学(第1次・第2次募集) 共通事項

1. 連携大学院	26
2. ダブルディグリー制度(令和7年4月入学(第1次募集)のみ)	26
3. 外国人留学生特別選抜(指定校推薦)	27
4. 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例による教育の実施について	28
5. 長期履修学生制度について	29
6. 障害等のある入学志願者との事前相談について	30
7. 入学検定料の返還について	32
8. 過去の入学試験問題について	32
9. 個人情報の利用について	32
10. その他	32

○ 専攻, 講座および教育研究分野の内容等

1. 資源循環学専攻	34
2. 共生環境学専攻	41
3. 生物圏生命科学専攻	49

本研究科では、令和6年10月入学生および令和7年4月入学生を募集します。

令和7年4月入学生の募集においては、第1次募集および第2次募集を実施します。

詳細については、該当ページをご確認ください。

入学者受入方針（アドミッションポリシー）

本研究科は、衣・食・住に関わる生物資源の生産・利用および環境の保全と修復を中心課題として自然の調和に配慮した教育・研究を展開することを目標としています。これによって、深い専門知識と目標達成能力および学際的・創造的視野をもつ先端的高度技術者と研究者を養成し、同時に生物資源学の確立と発展を目指しながら、その学術的・技術的成果を積極的に社会に還元することを目的としています。

このような目的を達成するために、本生物資源学研究科には

資源循環学専攻 共生環境学専攻 生物圏生命科学専攻

の3専攻があり、それぞれ博士前期課程と博士後期課程が設置されています。

博士前期課程アドミッションポリシー

生物資源学研究科が掲げる基本理念および教育目的に示す人材を養成するため、その基礎となる以下の素養を備えている人を受け入れます。

- (1) 生物資源の適正な開発・利用と環境保全に深い関心と意欲のある人。
- (2) 自然科学に深い興味を持ち、生物資源に関する専門的な知識と学力のある人。
- (3) 生物資源とその環境に関する問題を解決するための能力を自ら研鑽し、修養できる人。
- (4) 国際的に通用する語学能力、コミュニケーション力を身につけることのできる人。

上記の素養のある学生を選抜するため、以下の入学試験を実施します。

1) 一般選抜

専門科目（筆記）で上記(2)を、外国語（英語）で上記(4)を、面接で上記(1)、(3)を評価し、選抜します。

2) 社会人特別選抜

小論文で上記(1)、(2)を、面接で上記すべてを評価し、選抜します。

3) 外国人留学生特別選抜

外国語（日本語又は英語）で上記(4)を、面接で上記すべてを評価し、選抜します。

令和6年10月入学

1. 募集人員

専攻	講座	教育研究分野	募集人員		
			一般選抜	社会人特別選抜	外国人留学生特別選抜
資源循環学	農業生物学	分子遺伝育種学, 資源作物学, 園芸植物機能学, 動物生産学, 草地・飼料生産学, 植物医科学, 昆虫生態学	若干名	若干名	若干名
	森林資源環境学	森林保全生態学, 森林微生物学, 土壌圏生物機能学, 森林総合環境学, 緑環境計画学, 森林環境砂防学, 森林利用学, 木質資源工学, 木質分子素材制御学, ※自然共生学			
	国際・地域資源学	生物資源経済学, 循環経営社会学, 資源経済システム学, 国際資源植物学, 国際資源利用学			
共生環境学	地球環境学	気象・気候ダイナミクス, 気象解析予測学, 海洋気候学, 未来海洋予測学, フューチャー・アース学, 地球システム進化学, 水環境・自然災害科学, 環境解析学	若干名	若干名	若干名
	環境情報システム工学	応用環境情報学, 生産環境システム学, 生物環境制御学, エネルギー利用工学, フードシステム学			
	農業土木学	農村計画学, 土資源工学, 水資源工学, 農地工学, 水利施設工学, 土壌圏システム学, 土壌圏循環学			
生物圏生命科学	生命機能化学	分子細胞生物学, 分子生物情報学, 生理活性化学, 創薬化学, 生物機能化学, 生物制御生化学, 食品生物情報工学, 食品化学, 微生物遺伝学, 栄養化学, 食品発酵学, ※食品機能学	若干名	若干名	若干名
	海洋生命分子化学	海洋生物化学, 水圏生物利用学, 水圏材料分子化学, 生物物性学, 生体高分子化学, 海洋微生物学, 水産物品質学, 海洋食糧化学			
	海洋生物学	生物海洋学, 水族生理学, 藻類学, 浅海増殖学, 先端養殖管理学, 魚類増殖学, 海洋生態学, 水圏資源生物学, 水圏分子生態学, 海洋個体群動態学, 応用行動学, 水産応用情報学, 鯨類学, ※発生・代謝機能解析学			

※は連携大学院教育研究分野（26ページ参照）

注) 出願に際しては、志望する教育研究分野の教員または指導予定教員と事前に必ず連絡をとってから出願してください。

特に、他大学大学院の研究科や専攻あるいはコース等と重複して学籍を持つとする場合は、出願前に必ず相談をしてください。

2. 出願期間 試験日 合格発表

	出 願 期 間	試 験 日	合 格 発 表
日程	令和6年7月8日（月） ～ 令和6年7月12日（金）	令和6年8月21日（水） （志願者多数の場合 8月22日（木）も実施）	令和6年9月13日（金）
備考	受付時間：9時から17時 （郵送の場合は期間内に必着）	当日は受験票を必ず持参して 試験室に入室してください。 また、一般選抜志願者は、 TOEIC [®] のスコアシートも必ず 持参してください。	午前10時頃、生物資源学研究 科玄関ホールに合格者の受験 番号を掲示するとともに、合 格者本人宛に郵送で通知しま す。また、合格発表後、生物 資源学研究科ホームページ (https://www.bio.mie- u.ac.jp/)にも合格者の受験 番号を掲載します。 電話等による可否の問合わせ には一切応じません。

注) 試験日および受験上の注意事項は、別途志願者へ通知します。

3. 選抜の方法

入学者の選抜は、学力検査、提出書類の審査および面接の結果を総合して行います。

(1) 一般選抜

教 科 等	時 間	摘 要
外国語（英語） （TOEIC [®] スコアの 提出）	10:00 ～ 10:10	試験室においてTOEIC [®] スコアシートの原本 を集めます。 （当日のうちに返却します。）
筆 記 試 験 専 門 科 目	10:30 ～ 12:30	志望する教育研究分野に関連する科目
面 接	14:00 ～	学力および研究遂行能力等について行います。

一般選抜における外国語（英語）の評価方法について

一般選抜においては、TOEIC[®] (Test of English for International Communication) Listening & Reading Test のスコアによる英語の評価を行います。一般選抜の受験者は、各自で TOEIC[®]を受験し、一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会から送付された公式認定証の原本、デジタル公式認定証を A4 判用紙に印刷したもの、または TOEIC[®] IP テストのスコアレポートの原本を入学試験実施日に持参し、上記の提出時間に指示に従って提出してください。いかなる場合においても、スマートフォン等のデジタル機器でのスコアの提示は認められませんのでご注意ください。

注1：評価の対象として有効なスコアは、入学試験実施日の2年前以降に実施され、かつ入学試験実施日に提出可能な公開テスト及び各種団体が主催する TOEIC[®] IP テスト（各大学生協主催のカレッジ TOEIC[®]、三重大学全学共通教育センター主催の TOEIC[®] IP テストを含みます）のものとし、

TOEIC[®] Speaking & Writing Tests, TOEIC Bridge[®], TOEIC LPI[®]や TOEIC[®] Listening & Reading IP テスト（オンライン）のスコアは評価の対象となりません。

注2：**スコアが400点未満の場合および時間内にスコアシートを提出できない場合は不合格となります。いずれの場合も検定料の返還は行いませんのでご注意ください。**

注3：複数回受験した場合は、いずれか一つのスコアシートを提出してください。

注4：TOEIC[®]受験にかかる費用は、志願者の自己負担となりますのでご了承ください。

注5：TOEIC[®]の詳細については一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会に直接問い合わせるか、TOEIC[®]公式ホームページ [<https://www.toeic.or.jp/toeic/>] を参照してください。

(2) 社会人特別選抜

教科等	時間	摘要
小論文	10:30 ~ 12:00	
面接	13:00 ~	学力および研究遂行能力等について行います。

(3) 外国人留学生特別選抜

教科等	時間	摘要
外国語 (日本語又は英語)	10:30 ~ 12:00	語学辞書（1冊）の持ち込みを認めます。 (電子式は不可)
面接	13:00 ~	学力および研究遂行能力等について行います。

4. 出願資格

【一般選抜】

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第83条第1項に定める大学の卒業者および令和6年9月30日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者および令和6年9月30日までに授与される見込みの者
〔大学改革支援・学位授与機構により学位を授与された者および見込みの者をいいます。〕
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者および令和6年9月30日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者および令和6年9月30日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者および令和6年9月30日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者および令和6年9月30日までに授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者および令和6年9月30日までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
〔文部科学大臣の指定による、大学を卒業した者と同等の学力があると認められる者とは次の者をいいます。
旧大学令による大学、旧高等師範学校・学校専攻科、高等師範学校・女子高等師範学校、防衛大学校、防衛医科大学校、水産大学校、海上保安大学校、気象大学校、職業能力開発総合大学校の長期課程などの卒業（修了）者および令和6年9月30日までに卒業（修了）見込みの者〕
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
〔本研究科以外の大学院に飛び入学した者が本研究科において教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者をいいます。〕

(10) 令和6年9月30日までに大学の在学期間が3年以上となる者、外国において学校教育における15年の課程を修了する者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了する者、又は我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了する者で、本研究科が所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者

(11) 本研究科において、個別の資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和6年9月30日までに22歳に達する者

注1) 出願資格(9)(10)、および(11)により出願する者は、出願資格認定を受ける必要がありますので、8ページの「5. 出願資格審査について」をご覧ください。

【社会人特別選抜】

企業等に2年以上（入学時）勤務し、入学後も引き続き勤務が見込まれる者で、次の2つの条件を満たしている者

- (1) 学士の学位を有する者および令和6年9月30日までに取得見込みの者
- (2) 原則として、企業等において志望専攻の専門に関する経験をもっている者

【外国人留学生特別選抜】

日本の国籍を有しない者で、修学に必要な程度の日本語能力があり、次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第83条第1項に定める大学の卒業者および令和6年9月30日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者および令和6年9月30日までに授与される見込みの者
〔大学改革支援・学位授与機構により学位を授与された者及び見込みの者をいいます。〕
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者および令和6年9月30日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者および令和6年9月30日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者および令和6年9月30日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者および令和6年9月30日までに授与される見込みの者

- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者および令和6年9月30日までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- 文部科学大臣の指定による、大学を卒業した者と同等の学力があると認められる者とは次の者をいいます。
- 旧大学令による大学、旧高等師範学校・学校専攻科、高等師範学校・女子高等師範学校、防衛大学校、防衛医科大学校、水産大学校、海上保安大学校、気象大学校、職業能力開発総合大学校の長期課程などの卒業（修了）者および令和6年9月30日までに卒業（修了）見込みの者
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- 本研究科以外の大学院に飛び入学した者が本研究科において教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者をいいます。
- (10) 令和6年9月30日までに大学の在学期間が3年以上となる者、外国において学校教育における15年の課程を修了する者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了する者、又は我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了する者で、本研究科が所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた者
- (11) 本研究科において、個別の資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和6年9月30日までに22歳に達する者

注1) 出願資格(9)(10)、および(11)により出願する者は、出願資格認定を受ける必要がありますので、8ページの「5. 出願資格審査について」をご覧ください。

5. 出願資格審査について

下記の出願資格で出願しようとする者は、個別の出願資格審査を行います。事前に生物資源学研究科学務担当（〒514-8507 津市栗真町屋町 1577 TEL <059>231-9631 ）に照会してください。また、必ず志望する教育研究分野の教員又は指導予定教員と事前に連絡をとってから書類を提出してください。

記

一般選抜：出願資格（9）（10）（11）で出願する者
外国人留学生特別選抜：出願資格（9）（10）（11）で出願する者

① 出願資格事前審査書類提出期間

令和6年5月20日（月）～ 5月24日（金）

（受付時間は9時から17時で、郵送（書留速達に限る。）の場合は、期間内に必着とします。）

② 出願資格事前審査結果通知期日

令和6年7月3日（水）以降

③ 事前審査出願書類

10ページの表に記された出願書類（入学検定料，入学検定料納付票を除く。）をすべて提出してください。

一般選抜出願資格（9）（10），外国人留学生特別選抜出願資格（9）（10）に該当する者の認定は，提出書類等の審査により行います。一般選抜出願資格（11），外国人留学生特別選抜出願資格（11）に該当する者の認定は，提出書類による論文作成能力の審査を行った後に，学力審査（筆記試験あるいは口頭試問等）を行い，両方の審査結果に基づいて認定します。ただし，論文作成能力が不十分と判断される場合は，資格がないものと判定し，学力審査は行いません。

審査の結果「出願資格あり」と認定された場合は，出願期間内（令和6年7月8日～7月12日）に検定料（30,000円）をお支払いください。出願書類は再度提出していただく必要はありません。

6. 出願書類等

【出願資格：一般選抜(1)～(8)，社会人特別選抜(1)～(2)，外国人留学生特別選抜(1)～(8)】

(1) 志願者は、下記の書類を取りそろえて提出してください。入学志願票等の所定様式は、生物資源学研究科ホームページからダウンロードし、A4で印刷してください。○印の書類は全員が必要です。(△は該当者のみ)

出 願 書 類	摘 要	一 般 選 抜	社 会 人 特 別 選 抜	外 国 人 留 学 生 特 別 選 抜
入 学 志 願 票 写 真 表 ・ 受 験 票	【本研究科所定の様式】様式に必要事項を記入してください。 【本研究科所定の様式】出願日前3ヶ月以内に撮影した写真を貼ってください。	○	○	○
履 歴 書	【本研究科所定の様式】様式に必要事項を記入してください。(外国人留学生のみ)	△	△	○
卒 業 (見 込 み) 証 明 書	出身大学又は学校等の卒業(見込み)証明書 ※現在、三重大学生物資源学部に正規生として在籍する方は不要です。それ以外の方は必要です。	△	△	△
出身大学又は学校 等の成績証明書	発行者において厳封したもの	○	○	○
学位授与証明書 又は学位授与見込 みを証明する書類	一般選抜(ただし出願資格(1)を除く)および外国人留学生は必要です。 学位授与見込みの方は、短期大学長又は高等専門学校長が発行した学位授与申請予定証明書 および修了見込み証明書等の学位授与見込みを証明する書類。	△	—	○
志 願 理 由 書	【本研究科所定の様式】 様式に入学して、勉学・研究を行いたいと考えた動機および目的(計画)を1000字程度で記入 してください。	○	○	○
研究の業績概要	※現在、三重大学生物資源学部に正規生として在籍する方は不要です。それ以外の方は必要 です。 第1行目に研究題目、第2行目に氏名を表記し、A4版の様式1枚(1000字程度(図・表等を含 めることも可))程度で、出願者の研究業績(卒業論文も可)の概要を記入してください。 ただし、三重大学生物資源学部以外を卒業見込みの方、および大学改革支援・学位授与機構 より学士の学位を授与される見込みの方は、研究の進行状況を記述したものでかまいません。	△	△	△
研 究 成 果 資 料	出願者の著書、学術論文、学術報告、学会発表、特許等がある場合は、それを示す資料を添 付してください。共同研究の場合は、出願者が担当した部分を明確に記載してください。	△	△	△
返 信 用 封 筒	角形2号の封筒に郵便番号、住所、氏名を明記し、380円分の切手(速達)を貼ってください 。	○	○	○
入 学 検 定 料	入学検定料 30,000円(国費外国人留学生は不要です。) 【本学所定の振込様式】 振込の際には、振込様式に記載の【納入方法】と【注意事項】を必ずお読みください。「振 込証明書」を「入学検定料納付票」の所定欄に貼って、他の出願書類とともに提出してくだ さい。	○	○	○
入 学 検 定 料 納 付 書				
健 康 診 断 書	【本学所定の様式】 出願期間中に外国に在住している者(日本国籍を有する者を含む)で、受験するために新た に渡日する者は、健康診断書(本学所定の様式)を提出してください。詳細は下記アドレス で確認してください。 URL(日本語): https://www.mie-u.ac.jp/exam/health/Japanese/index.html URL(English): https://www.mie-u.ac.jp/exam/health/health3.html	△	△	△
そ の 他	外国人留学生は、「入国査証(visa)」の写し及びパスポートの写しを提出してください。	△	△	○

(2) 出願方法 出願書類等を郵送(書留速達)又は持参してください。

(3) 提出先 三重大学大学院生物資源学研究科事務担当(〒514-8507 津市栗真町屋町1577 TEL(059)231-9631)

【出願資格：一般選抜（9）～（11），外国人留学生特別選抜（9）～（11）】

（1）志願者は、下記の書類を取りそろえて提出してください。入学志願票等の所定様式は、生物資源学研究科ホームページからダウンロードし、A4で印刷してください。○印の書類は全員が必要です。（△は該当者のみ）

出 願 書 類	摘 要	一 般 選 抜	外 国 人 留 学 生 特 別 選 抜
入 学 志 願 票 写 真 表 ・ 受 験 票	【本研究科所定の様式】 様式に必要事項を記入してください。 【本研究科所定の様式】 出願日前3ヶ月以内に撮影した写真を貼ってください。	○	○
履 歴 書	【本研究科所定の様式】 様式に必要事項を記入してください。（外国人留学生のみ）	△	△
出身大学又は学校 等の成績証明書	発行者において厳封したもの。	○	○
在 学 証 明 書	一般選抜・出願資格（10），外国人留学生特別選抜・出願資格（10）に該当する方で在学中の方は必要です。	△	△
出身大学の履修手引 （授業内容一覧含む）	一般選抜・出願資格（10），外国人留学生特別選抜・出願資格（10）に該当する方は必要です。	△	△
志 願 理 由 書	【本研究科所定の様式】 様式に入学して、勉学・研究を行いたいと考えた動機および目的（計画）を1000字程度で記入してください。	○	○
研究の業績概要	一般選抜・出願資格（11），外国人留学生特別選抜・出願資格（11）に該当する方は必要です。 第1行目に研究題目，第2行目に氏名を表記し，A4版の様式2枚（3000字程度（図・表等を含めることも可））以内で，出願者の研究業績（卒業論文も可）の概要を論文スタイルで記入してください。	△	△
研究 成 果 資 料	出願者の著書，学術論文，学術報告，学会発表，特許等がある場合は，それを示す資料を添付してください。共同研究の場合は，出願者が担当した部分を明確に記載してください。	△	△
出 願 資 格 認 定 申 請 書	【本研究科所定の様式】	○	○
返 信 用 封 筒	角形2号の封筒に郵便番号，住所，氏名を明記し，380円分の切手（速達）を貼ってください。	○	○
入 学 検 定 料	入学検定料 30,000円（国費外国人留学生は不要です。） 【本学科所定の振込様式】 振込の際には，振込様式に記載の【納入方法】と【注意事項】を必ずお読みください。	○	○
入学検定料納付書	「振込証明書」を「入学検定料納付票」の所定欄に貼って，他の出願書類とともに提出してください。		
健 康 診 断 書	【本学所定の様式】 出願期間中に外国に在住している者（日本国籍を有する者を含む）で，受験するために新たに渡日する者は，健康診断書（本学所定の様式）を提出してください。詳細は下記アドレスで確認してください。 URL（日本語）： https://www.mie-u.ac.jp/exam/health/Japanese/index.html URL（English）： https://www.mie-u.ac.jp/exam/health/health3.html	△	△
そ の 他	外国人留学生は，「入国査証（visa）」の写し及びパスポートの写しを提出してください。	△	○

（2）出願方法 出願書類等を郵送（書留速達）又は持参してください。

（3）提出先 三重大学大学院生物資源学研究科学務担当（〒514-8507 津市栗真町屋町1577 TEL 〈059〉231-9631）

7. 入学手続

入学手続に必要な書類は、合格通知書とともに送付します。

注) 在職者は、所属長の入学承諾書が必要です。

8. 入学料および授業料

- ① 入学料 282,000円
- ② 授業料 前期分 267,900円 (国費外国人留学生は不要です。)
- 年額 535,800円

注) 在学中に授業料の改定が行われた場合には改定された新授業料が適用されます。

9. 高等学校教諭専修免許状について

本研究科において高等学校教諭専修免許状を取得しようとする者は、次の条件を満たさなくてはなりません。

- (1) 基礎資格として既に、理科・農業・水産の高等学校教諭一種免許状を取得していること。
- (2) 本研究科において、高等学校教諭専修免許状に関する専門教育科目のうちから、それぞれ24単位以上を修得すること。

10. 注意事項

- (1) 出願書類に記入もれ等不備がある場合は、受理しないことがあります。
- (2) 出願書類等に虚偽の記載内容があった場合は、入学決定後であっても、入学許可を取り消すことがあります。
- (3) 試験当日は、必ず本研究科が交付した受験票を持参してください。

また、一般選抜受験者は、TOEIC[®]のスコアシートも必ず持参してください。

なお、試験開始時刻に遅れた場合は、係員に申し出て指示を受けてください。一般選抜 外国語（英語）での10:10以降の遅刻およびその他の試験での30分を経過した遅刻の場合、当該教科およびその後の受験を認めません。

机の上に置けるものは、受験票・黒鉛筆・黒シャープペンシル・消しゴム・鉛筆削り・時計（時計の機能のみ）・眼鏡・目薬・ティッシュペーパー（袋から出したもの）です。

携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、計算機等の電子機器は、使用できません。

外国人留学生特別選抜の外国語（英語または日本語）の試験では、語学辞書1冊（電子辞書は不可）の使用を認めます。

- (4) 入学試験についての問い合わせは、下記へ行ってください。

〒514-8507 津市栗真町屋町1577 三重大学大学院生物資源学研究科学務担当 TEL <059>231-9631

また、災害等により試験日程や選抜内容に変更が生じた場合は、次のホームページ等により周知しますので、出願前や受験前は特に注意願います。

三重大学大学院生物資源学研究科ホームページ

URL <https://www.bio.mie-u.ac.jp/>

一 般 選 抜 出 願 資 格 (10)

外国人留学生特別選抜 出願資格 (10) による入学志願者で在学中の者の選抜について

(1) 選抜の方法

選抜は、資格審査と選抜試験（3. 選抜の方法を参照）および最終成績審査により行います。

ア 選抜試験は、令和6年8月21日（水）に、学力検査・提出書類の審査および面接の結果を総合して行います。

イ 選抜試験の合格者については、令和6年9月13日（金）に仮合格者として本人に通知します。仮合格者は3年次修了もしくは15年の課程の修了までの成績を記載した出身大学の成績証明書（発行者において厳封したもの）を令和6年9月19日（木）までに郵送（書留速達）又は持参してください。（郵送の場合は期日必着）提出先は出願書類提出先と同じです。上記成績証明書による最終成績審査に合格した者を、正式合格者とします。合格者は、令和6年9月24日（火）に、生物資源学研究科玄関ホールに掲示するとともに、併せて本人に通知します。

(2) 注意事項

本選抜方法により、大学を卒業せずに本研究科に入学した者の学部学生としての学籍上の身分は、退学となります。従って、種々の国家試験等の資格試験の受験資格で、大学の学部を卒業していることを要件としているものについては、受験資格がないこととなります。

令和 7 年 4 月 入 学
(第 1 次・第 2 次募集)

1. 募集人員

専攻	講座	教育研究分野	募集人員		
			一般選抜	社会人特別選抜	外国人留学生特別選抜
資源循環学	農業生物学	分子遺伝育種学, 資源作物学, 園芸植物機能学, 動物生産学, 草地・飼料生産学, 植物医科学, 昆虫生態学	23名 (うち, 社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜は若干名)		
	森林資源環境学	森林保全生態学, 森林微生物学, 土壌圏生物機能学, 森林総合環境学, 緑環境計画学, 森林環境砂防学, 森林利用学, 木質資源工学, 木質分子素材制御学, ※自然共生学			
	国際・地域資源学	生物資源経済学, 循環経営社会学, 資源経済システム学, 国際資源植物学, 国際資源利用学			
共生環境学	地球環境学	気象・気候ダイナミクス, 気象解析予測学, 海洋気候学, 未来海洋予測学, フューチャー・アース学, 地球システム進化学, 水環境・自然災害科学, 環境解析学	26名 (うち, 社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜は若干名)		
	環境情報システム工学	応用環境情報学, 生産環境システム学, 生物環境制御学, エネルギー利用工学, フードシステム学			
	農業土木学	農村計画学, 土資源工学, 水資源工学, 農地工学, 水利施設工学, 土壌圏システム学, 土壌圏循環学			
生物圏生命科学	生命機能化学	分子細胞生物学, 分子生物情報学, 生理活性化学, 創薬化学, 生物機能化学, 生物制御生化学, 食品生物情報工学, 食品化学, 微生物遺伝学, 栄養化学, 食品発酵学, ※食品機能学	39名 (うち, 社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜は若干名)		
	海洋生命分子化学	海洋生物化学, 水圏生物利用学, 水圏材料分子化学, 生物物性学, 生体高分子化学, 海洋微生物学, 水産物品質学, 海洋食糧化学			
	海洋生物学	生物海洋学, 水族生理学, 藻類学, 浅海増殖学, 先端養殖管理学, 魚類増殖学, 海洋生態学, 水圏資源生物学, 水圏分子生態学, 海洋個体群動態学, 応用行動学, 水産応用情報学, 鯨類学, ※発生・代謝機能解析学			

※は連携大学院教育研究分野（26ページ参照）

注1) 出願に際しては、志望する教育研究分野の教員または指導予定教員と事前に必ず連絡をとってから出願してください。

特に、他大学大学院の研究科や専攻あるいはコース等と重複して学籍を持つとする場合は、出願前に必ず相談をしてください。

注2) 各専攻とも第1次募集および第2次募集を行います。（募集人員は第1次募集、第2次募集の合計です。）

注3) 上記各種選抜による募集の中には、ダブルディグリー修士プログラム（26ページ参照）の学生の募集も含まれます。

このプログラムの1年次生の募集は、第1次募集でのみ行います。

2. 出願期間 試験日 合格発表

	出 願 期 間	試 験 日	合 格 発 表
第1次 募 集	令和6年7月8日（月） ～ 令和6年7月12日（金）	令和6年8月21日（水） （志願者多数の場合 8月22日（木）も実施）	令和6年9月13日（金）
第2次 募 集	令和6年12月9日（月） ～ 令和6年12月13日（金）	令和7年1月21日（火） （志願者多数の場合 1月22日（水）も実施）	令和7年2月14日（金）
備考	受付時間：9時から17時 (郵送の場合は期間内に必着)	当日は受験票を必ず持参して試験室に入室してください。 また、一般選抜志願者は、TOEIC [®] のスコアシートも必ず持参してください。	午前10時頃、生物資源学研究科 玄関ホールに合格者の受験番号 を掲示するとともに、合格者本人宛に郵送で通知します。 また、合格発表後、生物資源学 研究科ホームページ (https://www.bio.mie-u.ac.jp/) にも合格者の受験番号を 掲載します。 電話等による可否の問い合わせには一切応じません。

注) 試験日および受験上の注意事項は、別途志願者へ通知します。

3. 選抜の方法

入学者の選抜は、学力検査、提出書類の審査および面接の結果を総合して行います。

(1) 一般選抜

教科等	時間	摘要
外国語（英語） (TOEIC [®] スコアの提出)	10:00 ～ 10:10	試験室においてTOEIC [®] スコアシートの原本を集めます。 (当日のうちに返却します。)
筆記試験 専門科目	10:30 ～ 12:30	志望する教育研究分野に関連する科目
面接	14:00～	学力および研究遂行能力等について行います。

一般選抜における外国語（英語）の評価方法について

一般選抜においては、TOEIC[®] (Test of English for International Communication) Listening & Reading Test のスコアによる英語の評価を行います。一般選抜の受験者は、各自で TOEIC[®]を受験し、一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会から送付された公式認定証の原本、デジタル公式認定証を A4 判用紙に印刷したもの、または TOEIC[®]IP テストのスコアレポートの原本を入学試験実施日に持参し、上記の提出時間に指示に従って提出してください。いかなる場合においても、スマートフォン等のデジタル機器でのスコアの提示は認められませんのでご注意ください。

注1：評価の対象として有効なスコアは、入学試験実施日の2年前以降に実施され、かつ入学試験実施日に提出可能な公開テスト及び各種団体が主催する TOEIC[®]IP テスト（各大学生協主催のカレッジ TOEIC[®]、三重大学全学共通教育センター主催の TOEIC[®]IP テストを含みます。）のものとし、TOEIC[®] Speaking & Writing Tests, TOEIC Bridge[®], TOEIC LPI[®]や TOEIC[®] Listening & Reading IP テスト（オンライン）のスコアは評価の対象となりません。

注2：スコアが400点未満の場合および時間内にスコアシートを提出できない場合は不合格となります。いずれの場合も検定料の返還は行いませんのでご注意ください。

注3：複数回受験した場合は、いずれか一つのスコアシートを提出してください。

注4：TOEIC[®]受験にかかる費用は、志願者の自己負担となりますのでご了承ください。

注5：TOEIC[®]の詳細については一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会に直接問い合わせるか、TOEIC[®]公式ホームページ [<https://www.toeic.or.jp/toeic/>] を参照してください。

(2) 社会人特別選抜

教 科 等	時 間	摘 要
小 論 文	10:30 ~ 12:00	
面 接	13:00 ~	学力および研究遂行能力等について行います。

(3) 外国人留学生特別選抜

教 科 等	時 間	摘 要
外 国 語 (日本語又は英語)	10:30 ~ 12:00	語学辞書（1冊）の持ち込みを認めます。 (電子式は不可)
面 接	13:00 ~	学力および研究遂行能力等について行います。

4. 出願資格

【一般選抜】

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第83条第1項に定める大学の卒業者および令和7年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者および令和7年3月31日までに授与される見込みの者
[大学改革支援・学位授与機構により学位を授与された者および見込みの者をいいます。]
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者および令和7年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者および令和7年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者および令和7年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者および令和7年3月31日までに授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者および令和7年3月31日までに修了見込みの者

(8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）

文部科学大臣の指定による、大学を卒業した者と同等の学力があると認められる者とは次の者をいいます。

旧大学令による大学、旧高等師範学校規程による旧高等師範学校専攻科、旧師範教育令による高等師範学校・女子高等師範学校の修業年限1年以上の研究科、防衛大学校、防衛医科大学校、水産大学校、海上保安大学校、気象大学校、職業能力開発総合大学校の長期課程などの卒業（修了）者および令和7年3月31日までに卒業（修了）見込みの者

(9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者

本研究科以外の大学院に飛び入学した者が本研究科において教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者をいいます。

(10) 令和7年3月31日までに大学の在学期間が3年以上となる者、外国において学校教育における15年の課程を修了する者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了する者、又は我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了する者で、本研究科が所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者

(11) 本研究科において、個別の資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和7年3月31日までに22歳に達する者

注1) 出願資格(9)(10)、および(11)により出願する者は、出願資格認定を受ける必要がありますので、20ページの「5. 出願資格審査について」をご覧ください。

【社会人特別選抜】

企業等に2年以上（入学時）勤務し、入学後も引き続き勤務が見込まれる者で、次の2つの条件を満たしている者

- (1) 学士の学位を有する者および令和7年3月31日までに取得見込みの者
- (2) 原則として、企業等において志望専攻の専門に関する経験をもっている者

【外国人留学生特別選抜】

日本の国籍を有しない者で、修学に必要な程度の日本語能力があり、次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第83条第1項に定める大学の卒業生および令和7年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者および令和7年3月31日までに授与される見込みの者
〔大学改革支援・学位授与機構により学位を授与された者および見込みの者をいいます。〕
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者および令和7年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者および令和7年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者および令和7年3月31日までに修了見込みの者

- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者および令和7年3月31日までに授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者および令和7年3月31日までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
 文部科学大臣の指定による、大学を卒業した者と同等の学力があると認められる者とは次の者をいいます。
 旧大学令による大学、旧高等師範学校規程による旧高等師範学校専攻科、旧師範教育令による高等師範学校・女子高等師範学校の修業年限1年以上の研究科、防衛大学校、防衛医科大学校、水産大学校、海上保安大学校、気象大学校、職業能力開発総合大学校の長期課程などの卒業（修了）者および令和7年3月31日までに卒業（修了）見込みの者
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
 本研究科以外の大学院に飛び入学した者が本研究科において教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者をいいます。
- (10) 令和7年3月31日までに大学の在学期間が3年以上となる者、外国において学校教育における15年の課程を修了する者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了する者、又は我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了する者で、本研究科が所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者
- (11) 本研究科において、個別の資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和7年3月31日までに22歳に達する者

注1) 出願資格(9)(10)、および(11)により出願する者は、出願資格認定を受ける必要がありますので、20ページの「5. 出願資格審査について」をご覧ください。

5. 出願資格審査について

下記の出願資格で出願しようとする者は、個別の出願資格審査を行います。事前に生物資源学研究科学務担当（〒514-8507 津市栗真町屋町1577 TEL <059>231-9631）に照会してください。また、必ず志望する教育研究分野の教員又は指導予定教員と事前に連絡をとってから書類を提出してください。

- 一般選抜：出願資格（9）（10）（11）で出願する者
- 外国人留学生特別選抜：出願資格（9）（10）（11）で出願する者

① 出願資格事前審査書類提出期間

（第1次募集）令和6年5月20日（月）～ 5月24日（金）

（第2次募集）令和6年11月11日（月）～ 11月15日（金）

（受付時間は9時から17時で、郵送（書留速達に限る。）の場合は、期間内に必着とします。）

* 一般選抜 出願資格（10）および 外国人留学生特別選抜 出願資格（10）で出願する者

第2次募集の出願になります。選抜試験（令和7年1月21日）に合格後、最終成績審査が必要です。（選抜についての詳細は24ページをご覧ください。）

② 出願資格事前審査結果通知期日

（第1次募集）令和6年7月3日（水）以降

（第2次募集）令和6年12月4日（水）以降

③ 事前審査出願書類

22ページの表に記された出願書類（入学検定料、入学検定料納付票を除く。）をすべて提出してください。

一般選抜出願資格（9）（10）、外国人留学生特別選抜出願資格（9）（10）に該当する者の認定は、提出書類等の審査により行います。一般選抜出願資格（11）、外国人留学生特別選抜出願資格（11）に該当する者の認定は、提出書類による論文作成能力の審査を行った後に、学力審査（筆記試験あるいは口頭試問等）を行い、両方の審査結果に基づいて認定します。ただし、論文作成能力が不十分と判断される場合は、資格がないものと判定し、学力審査は行いません。

審査の結果「出願資格あり」と認定された場合は、出願期間内（第1次：令和6年7月8日～12日・第2次：令和6年12月9日～13日）に検定料（30,000円）をお支払いください。

出願書類は再度提出していただく必要はありません。

6. 出願書類等

【出願資格：一般選抜(1)～(8)，社会人特別選抜(1)～(2)，外国人留学生特別選抜(1)～(8)】

(1) 志願者は、下記の書類を取りそろえて提出してください。入学志願票等の所定様式は、生物資源学研究科ホームページからダウンロードし、A4で印刷してください。○印の書類は全員が必要です。(△は該当者のみ)

出 願 書 類	摘 要	一 般 選 抜	社 会 人 特 別 選 抜	外 国 人 留 学 生 特 別 選 抜
入 学 志 願 票 写 真 表 ・ 受 験 票	【本研究科所定の様式】 本研究科所定の様式に必要事項を記入してください。 【本研究科所定の様式】 出願日前3ヶ月以内に撮影した写真を貼ってください。	○	○	○
履 歴 書	【本研究科所定の様式】 様式に必要事項を記入してください。(外国人留学生のみ)	△	△	○
卒 業 (見 込 み) 証 明 書	出身大学又は学校等の卒業(見込み)証明書 ※現在、三重大学生物資源学部に正規生として在籍する方は不要です。 それ以外の方は必要です。	△	△	△
出身大学又は学校 等の成績証明書	発行者において厳封したもの。	○	○	○
学位授与証明書 又は学位授与見込 みを証明する書類	一般選抜(ただし出願資格(1)を除く)および外国人留学生は必要です。 学位授与見込みの方は、短期大学長又は高等専門学校長が発行した学位授与申請予定証明書 および修了見込み証明書等の学位授与見込みを証明する書類。	△	—	○
志 願 理 由 書	【本研究科所定の様式】 本研究科所定の様式に入学して、勉学・研究を行いたいと考えた動機および目的(計画)を 1000字程度で記入してください。	○	○	○
研究の業績概要	※現在、三重大学生物資源学部に正規生として在籍する方は不要です。 それ以外の方は必要です。 第1行目に研究題目、第2行目に氏名を表記し、A4版の様式1枚(1000字程度(図・表等を含めることも可))程度で、出願者の研究業績(卒業論文も可)の概要を記入してください。 ただし、三重大学生物資源学部以外を卒業見込みの方、および大学改革支援・学位授与機構 より学士の学位を授与される見込みの方は、研究の進行状況を記述したものでかまいません。	△	△	△
研究 成 果 資 料	出願者の著書、学術論文、学術報告、学会発表、特許等がある場合は、それを示す資料を添 付してください。共同研究の場合は、出願者が担当した部分を明確に記載してください。	△	△	△
返 信 用 封 筒	角形2号の封筒に郵便番号、住所、氏名を明記し、380円分の切手(速達)を貼ってください 。	○	○	○
入 学 検 定 料	入学検定料 30,000円(国費外国人留学生は不要です。) 【本学所定の振込様式】 振込の際には、振込様式に記載の【納入方法】と【注意事項】を必ずお読みください。	○	○	○
入学検定料納付書	「振込証明書」を「入学検定料納付票」の所定欄に貼って、他の出願書類とともに提出して ください。			
健 康 診 断 書	【本学所定の様式】 出願期間中に外国に在住している者(日本国籍を有する者を含む)で、受験するために新た に渡日する者は、健康診断書(本学所定の様式)を提出してください。詳細は下記アドレス で確認してください。 URL(日本語): https://www.mie-u.ac.jp/exam/health/Japanese/index.html URL(English): https://www.mie-u.ac.jp/exam/health/health3.html	△	△	△
そ の 他	外国人留学生は、「入国査証(visa)」の写し及びパスポートの写しを提出してください。	△	△	○

(2) 出願方法 出願書類等を郵送(書留速達)又は持参してください。

(3) 提出先 三重大学大学院生物資源学研究科科学務担当(〒514-8507 津市栗真町屋町1577 TEL(059)231-9631)

【出願資格：一般選抜（9）～（11），外国人留学生特別選抜（9）～（11）】

（1）志願者は，下記の書類を取りそろえて提出してください。入学志願票等の所定様式は，生物資源学研究科ホームページからダウンロードし，A4で印刷してください。○印の書類は全員が必要です。（△は該当者のみ）

出 願 書 類	摘 要	一 般 選 抜	外 国 人 留 学 生 特 別 選 抜
入 学 志 願 票 写 真 表 ・ 受 験 票	【本研究科所定の様式】様式に必要事項を記入してください。 【本研究科所定の様式】出願日前3ヶ月以内に撮影した写真を貼ってください。	○	○
履 歴 書	【本研究科所定の様式】様式に必要事項を記入してください。（外国人留学生のみ）	△	△
出身大学又は学校 等の成績証明書	発行者において厳封したもの。	○	○
在 学 証 明 書	一般選抜・出願資格（10），外国人留学生特別選抜・出願資格（10）に該当する方で在学中の方は必要です。	△	△
出身大学の履修手引 （授業内容一覧含む）	一般選抜・出願資格（10），外国人留学生特別選抜・出願資格（10）に該当する方は必要です。	△	△
志 願 理 由 書	【本研究科所定の様式】 様式に入学して，勉学・研究を行いたいと考えた動機および目的（計画）を1000字程度で記入してください。	○	○
研究の業績概要	一般選抜・出願資格（11），外国人留学生特別選抜・出願資格（11）に該当する方は必要です。 第1行目に研究題目，第2行目に氏名を表記し，A4版の様式2枚（3000字程度（図・表等を含めることも可））以内で，出願者の研究業績（卒業論文も可）の概要を論文スタイルで記入してください。	△	△
研究 成 果 資 料	出願者の著書，学術論文，学術報告，学会発表，特許等がある場合は，それを示す資料を添付してください。共同研究の場合は，出願者が担当した部分を明確に記載してください。	△	△
出 願 資 格 認 定 申 請 書	【本研究科所定の様式】	○	○
返 信 用 封 筒	角形2号の封筒に郵便番号，住所，氏名を明記し，380円分の切手（速達）を貼ってください。	○	○
入 学 検 定 料	入学検定料 30,000円（ 国費外国人留学生は不要です。 ） 【本学所定の様式】 振込の際には，振込様式に記載の【納入方法】と【注意事項】を必ずお読みください。	○	○
入学検定料納付書	「振込証明書」を「入学検定料納付票」の所定欄に貼って，他の出願書類とともに提出してください。		
健 康 診 断 書	【本学所定の様式】 出願期間中に外国に在住している者（日本国籍を有する者を含む）で，受験するために新たに渡日する者は，健康診断書（本学所定の様式）を提出してください。詳細は下記アドレスで確認してください。 URL（日本語）： https://www.mie-u.ac.jp/exam/health/Japanese/index.html URL（English）： https://www.mie-u.ac.jp/exam/health/health3.html	△	△
そ の 他	外国人留学生は，「入国査証（visa）」の写し及びパスポートの写しを提出してください。	△	○

（2）出願方法 出願書類等を郵送（書留速達）又は持参してください。

（3）提出先 三重大学大学院生物資源学研究科学務担当（〒514-8507 津市栗真町屋町1577 TEL（059）231-9631）

7. 入学手続

入学手続に必要な書類は、令和7年3月上旬に送付します。

注) 在職者は、所属長の入学承諾書が必要です。

8. 入学料および授業料

- ① 入学料 282,000円
- ② 授業料 前期分 267,900円 (国費外国人留学生は不要です。)
- 年 額 535,800円

注1) 在学中に授業料の改定が行われた場合には改定された新授業料が適用されます。

9. 高等学校教諭専修免許状について

本研究科において高等学校教諭専修免許状を取得しようとする者は、次の条件を満たさなくてはなりません。

- (1) 基礎資格として既に、理科・農業・水産の高等学校教諭一種免許状を取得していること。
- (2) 本研究科において、高等学校教諭専修免許状に関する専門教育科目のうちから、それぞれ24単位以上を修得すること。

10. 注意事項

- (1) 出願書類に記入もれ等不備がある場合は、受理しないことがあります。
- (2) 出願書類等に虚偽の記載内容があった場合は、入学決定後であっても、入学許可を取り消すことがあります。
- (3) 試験当日は、必ず本研究科が交付した受験票を持参してください。

また、一般選抜受験者は、TOEIC[®]のスコアシートも必ず持参してください。

なお、試験開始時刻に遅れた場合は、係員に申し出て指示を受けてください。一般選抜 外国語（英語）での10:10以降の遅刻およびその他の試験での30分を経過した遅刻の場合、当該教科およびその後の受験を認めません。

机の上に置けるものは、受験票・黒鉛筆・黒シャープペンシル・消しゴム・鉛筆削り・時計（時計の機能のみ）・眼鏡・目薬・ティッシュペーパー（袋から出したもの）です。携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、計算機等の電子機器は、使用できません。

外国人留学生特別選抜の外国語（英語または日本語）の試験では、語学辞書1冊（電子辞書は不可）の使用を認めます。

- (4) 入学試験についての問い合わせは、下記へ行ってください。

〒514-8507 津市栗真町屋町 1577 三重大学大学院生物資源学研究科学務担当 TEL <059>231-9631

また、災害等により試験日程や選抜内容に変更が生じた場合は、次のホームページ等により周知しますので、出願前や受験前は特に注意願います。

三重大学大学院生物資源学研究科ホームページ

URL <https://www.bio.mie-u.ac.jp/>

一 般 選 抜 出 願 資 格 (10)

外国人留学生特別選抜 出願資格 (10) による入学志願者で在学中の者の選抜について

(1) 選抜の方法

選抜は、資格審査と選抜試験（3. 選抜の方法を参照）および最終成績審査により行います。

ア 選抜試験は、令和7年1月21日（火）に、学力検査・提出書類の審査および面接の結果を総合して行います。

イ 選抜試験の合格者については、令和7年2月14日（金）に仮合格者として本人に通知します。仮合格者は3年次修了もしくは15年の課程の修了までの成績を記載した出身大学の成績証明書（発行者において厳封したもの）を令和7年2月26日（水）までに郵送（書留速達）又は持参してください。（郵送の場合は期日必着）提出先は出願書類提出先と同じです。

上記成績証明書による最終成績審査に合格した者を、正式合格者とします。

合格者は、令和7年3月7日（金）に、生物資源学研究科玄関ホールに掲示するとともに、併せて本人に通知します。

(2) 注意事項

本選抜方法により、大学を卒業せずに本研究科に入学した者の学部学生としての学籍上の身分は、退学となります。従って、種々の国家試験等の資格試験の受験資格で、大学の学部を卒業していることを要件としているものについては、受験資格がないこととなります。

令和6年10月入学
令和7年4月入学（第1次・第2次）
共 通 事 項

1. 連携大学院

三重大学大学院生物資源学研究科は、大学院教育の実施にあたり、「国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所」、「国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所」および「太陽化学株式会社」と連携して連携大学院を設置しています。

連携大学院方式について

連携大学院方式とは、連携する研究機関がもつ高度な研究水準(施設・設備・人的資源(技術・方法論))を活用して大学院教育を行うもので、連携機関からは研究者が連携大学院の連携教授および連携准教授として教育研究に参加するとともに、それぞれの研究所が学生を受け入れ、学生に対する研究指導は、主に連携機関で行います。

	三重大学大学院生物資源学研究科	
	博士前期課程	博士後期課程
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所	資源循環学専攻 森林資源環境学講座 木質資源工学教育研究分野 自然共生学教育研究分野	資源循環学専攻 資源循環システム科学講座 森林資源環境学研究分野
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所	生物圏生命科学専攻 海洋生物学講座 発生・代謝機能解析学 教育研究分野	生物圏生命科学専攻 海洋生物科学講座 海洋生物学教育研究分野
太陽化学 株式会社	生物圏生命科学専攻 生命機能化学講座 食品機能学教育研究分野	生物圏生命科学専攻 応用生命化学講座 生命機能化学教育研究分野

2. ダブルディグリー制度(本制度は令和7年4月入学(第1次募集)のみ)

ダブルディグリー制度とは、協定を締結している海外の大学院(以下協定先大学大学院)への留学を通じ、両研究科の教員による教育研究指導や単位互換制度により、本研究科と協定先大学大学院双方の学位(修士)をそれぞれ同時に取得する留学制度です。本研究科では、インドネシアのスリウィジャヤ大学およびパジャジャラン大学との間で、ダブルディグリー修士プログラムを実施しています。

博士前期課程1年次は、協定先大学大学院において、2年次は、本研究科において就学し、両研究科がそれぞれに行う修士論文の審査および最終試験に合格したときは、プログラム修了証書ならびに三重大学から修士(生物資源学)の学位を、協定先大学大学院から修士の学位を取得することができます。なお、本制度の利用においては、海外の大学院で、英語で行われる授業を履修するのに十分な語学力が必要となります。

協定先大学、プログラム、取得できる学位は下記を参照願います。

協定先大学大学院との共同プログラム実施期間の関係から、本制度は令和7年4月入学(第1次募集)のみが対象となりますので、検討をされている方は、ご留意願います。その他プログラムおよび選抜の詳細については三重大学大学院生物資源学研究科学務担当(059-231-9631)までお問い合わせください。

記

協定先大学大学院

スリウィジャヤ大学大学院（インドネシア・スマトラ・パレンバン市に位置する総合大学）

プログラム名：「Program on Integrated Food Production and Management Planning」
（総合的食料生産・管理計画学プログラム）

取得できる学位： 修士（生物資源学）（三重大学）
Magister Sains : M.Si（スリウィジャヤ大学）

パジャジャラン大学大学院（インドネシア・ジャワ・バンドン市に位置する総合大学）

プログラム名：「Program on Sustainable Rural Development and Conservation」
（持続的地域発展・保全学プログラム）

取得できる学位： 修士（生物資源学）（三重大学）
Magister Ilmu Lingkungan : M.I.L.（パジャジャラン大学）

※本制度は令和7年4月入学（第1次募集）のみが対象となっていますが、本制度を周知するため
共通事項に記載をしています。

3. 外国人留学生特別選抜（指定校推薦）

指定校推薦の試験は、本学との協定校である大学を卒業した者又は卒業見込みの者で、指定校より推薦
を得られる志願者のみ応募できます。入学時期は10月です。

募集に関する詳細は、別途本研究科（博士前期課程）の外国人留学生特別選抜（指定校推薦）学生募
集要項を確認してください。

4. 大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例による教育の実施について

近年、大学院における社会人の再教育への要望が高まっていますが、通常の教育方法のみで大学院教育を実施した場合、社会人は最低 2 年間その勤務を離れて就学することが必要となるため、大学院教育を受ける機会が制約されがちです。

このため、大学院設置基準第 14 条では、「修士課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」旨規定され、社会人の就学に特別措置を行うことが配慮されています。

これらを踏まえ、本研究科では、平成 2 年度から大学院での履修を希望する社会人に対して教育方法の特例による教育を実施しています。

この概要は次のとおりです。

1 履修方法

大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例の趣旨に基づき、社会人学生の修学を容易ならしめるとともに、大学院としての研究・教育の水準を保持するため、特例の実施については原則として次のとおりです。

- ① 修業年限 2 年のうち前半の 1 年は、社会人学生として昼間は企業等に勤務専念する。
ただし、夜間および勤務を要しない日時に授業科目（講義及び演習等）を履修します。
- ② 特例による授業は、平日の夜間 11・12 限（18 時始業）以降に行います。
- ③ 後半 1 年は、通常の授業時間帯において特別研究を修得し、修士論文を作成します。
- ④ 社会人学生は、夜間の開講科目を履修することが予定されていますが、学生の関心と時間的余裕があれば昼間開講科目を履修することもできます。
- ⑤ 履修計画は指導教員の指導のもとに作成します。

2 授業等の実施方法

修士課程の修了要件は大学院に 2 年以上在学し、30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本研究科の行う修士論文の審査および最終試験に合格することですが、特例により夜間 11・12 限以降を履修すれば、社会人学生は 1 年次で講義および演習、特別研究を修得することができます。

2 年次には昼間 1～10 限（8 時 50 分～17 時 50 分）を利用して特別研究と 1 年次で取り残した単位を修得することができます。このような履修方法は社会人学生でも十分に対応できるものであり、むしろ職場の経験や最新の情報を生かすことにより学問的研究の内容をより向上したものとし、他の一般学生に対しても好ましい影響を与えることとなります。

3 研究内容と場所

- ① 社会人学生の研究は、本研究科の指導教員の指導によって実施し、その内容は公表されることとなります。その場合、教員の選んだテーマ以外に教員の了解を得て、勤務先等での研究体験を通して選んだテーマで研究を行うこともできます。
- ② 研究を全うするために、大学にない特殊な研究設備などを必要とする場合には、本研究科の研究室以外に、勤務先等の施設や設備を利用することができます。

5. 長期履修学生制度について

長期履修学生制度は、職業等に従事しながら、個人の事情に応じて、柔軟に標準修業年限（2年）を超えて履修し学位等を取得できるようにする制度です。

長期履修学生として認められる修業年限は最大4年となります。それぞれの年（学期）に支払う授業料は、2年間（標準修業年限）に支払うべき授業料総額を、あらかじめ認められた修業年限で除した額となります。（下記【授業料の納入例】参照）

長期履修を希望する者は、「長期履修申請書（本研究科所定の用紙）」および「在職証明書等（在職証明書またはそれに準ずる書類）」を下記提出期限までに、三重大学大学院生物資源学研究科学務担当へ提出してください。

長期履修申請の審査結果は、後日、合格者本人に通知します。

提出期限

令和6年10月入学：令和6年8月20日（火）まで（土、日、祝日は除く。）

令和7年4月入学（第1次・第2次募集）

：令和7年2月20日（木）まで（土、日、祝日は除く。）

【授業料の納入例】

標準修業年限（2年）

1年目 (535,800円)	2年目 (535,800円)	授業料総額 1,071,600円
--------------------------	--------------------------	------------------

①出願時に申請し、3年の長期履修学生として認められた場合

1年目 (357,200円)	2年目 (357,200円)	3年目 (357,200円)	
$1,071,600円 \div 3年 = 357,200円$ （1年間の授業料）			授業料総額 1,071,600円

②出願時に申請し、4年の長期履修学生として認められた場合

1年目 (267,900円)	2年目 (267,900円)	3年目 (267,900円)	4年目 (267,900円)	
$1,071,600円 \div 4年 = 267,900円$ （1年間の授業料）				授業料総額 1,071,600円

長期履修申請書（本研究科所定の用紙）は、事前に請求してください。

長期履修学生制度についての詳細は、三重大学大学院生物資源学研究科学務担当へお問い合わせください。

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577

三重大学大学院生物資源学研究科学務担当

電話 059-231-9631

6. 障害等のある入学志願者との事前相談について

障害のある者に対しては、受験及び修学上の配慮が必要となる場合がありますので、出願に先立ち、必ず次により相談してください。

なお、相談の内容によっては、対応に時間を要することもありますので、できるだけ早い時期に相談してください。

また、相談の時期後に本学を志願することとなった場合及び不慮の事故等により障害を有することとなった場合は、その時点で速やかに相談してください。

事前相談は障害等のある志願者に本学の現状をあらかじめ知っていただき、受験及び修学に関してより良い方法やあり方を模索するためのもので、障害のある方の受験や修学を制限するものではありません。

事前相談の対象となる者【参考】

区 分	対象となる者
① 視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> 点字による教育を受けている者 両眼の矯正視力がおおむね0.3未満の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者 視力以外の視機能障害が高度な者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者 上記以外で視覚に関する配慮を必要とする者
② 聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> 両耳の平均聴力レベルが60デシベル以上の者 上記以外で聴覚に関する配慮を必要とする者
③ 肢体不自由	<ul style="list-style-type: none"> 体幹の機能障害により座位を保つことができない者又は困難な者 両上肢の機能障害が著しい者 上記以外で肢体不自由者に関する配慮を必要とする者
④ 病弱	<ul style="list-style-type: none"> 慢性の呼吸器疾患、心臓疾患、腎臓疾患、消化器疾患等の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度の者、又はこれに準ずる者
⑤ 発達障害	<ul style="list-style-type: none"> 学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害等のため配慮を必要とする者
⑥ その他	<ul style="list-style-type: none"> ①～⑤の区分以外の者で配慮を必要とする者

「注」 日常生活においてごく普通に使用されている補聴器、松葉杖、車椅子等を使用して受験する場合も、試験場設定等において何らかの配慮が必要となる場合がありますので、事前に相談してください。

受験上の配慮の例

<ul style="list-style-type: none"> 試験場への乗用車の入構 車椅子の使用 補聴器の使用 連絡事項の文書による伝達 	<ul style="list-style-type: none"> 試験室を別室に設定 座席を最前列/最後列/出入口近く等に設定 試験室を障害者用トイレ近くに設定 試験時間の延長
---	--

1. 相談の方法

電話又はFAXなどによりあらかじめ本学大学院生物資源学研究科学務担当に連絡した上で、次の内容を記載した相談書（様式は特に定めません。）を、本学大学院生物資源学研究科学務担当に郵送などの方法で提出してください。

なお、必要な場合は入学志願者又は出身学校関係者等との面談を行うことがあります。

- ① 入学志願者の氏名、性別、生年月日、住所、連絡先の電話番号
- ② 出身大学又は大学院等名・卒業・修了（見込み）年月日
- ③ 志望専攻・志望教育研究分野名
- ④ 障害の種類・程度（医師の診断書又は身体障害者手帳等の写しを添付してください。）
- ⑤ 受験及び修学上希望する具体的配慮
- ⑥ 出身大学等における生活状況等（主として授業関係）
- ⑦ その他参考となる事項

2. 相談の時期

令和6年10月入学・令和7年4月入学（第1次募集）

令和6年6月10日（月）まで（土、日、祝日を除く。）

令和7年4月入学（第2次募集）

令和6年11月25日（月）まで（土、日、祝日を除く。）

3. 相談先

〒514-8507 津市栗真町屋町 1577 三重大学大学院生物資源学研究科学務担当
TEL 059-231-9631 FAX 059-231-9634

三重大大学の取組み

三重大学では、「三重大学における障害のある学生の支援に関する基本方針」を定めており、各学部および学内関連組織と連携を図りながら、学生支援に取り組んでいます。詳細は以下のウェブページをご参照ください。

URL:

<https://www.mie-u.ac.jp/support/education/shogai-shien-policy.html>

7. 入学検定料の返還について

入学検定料を払い込んだ後は、次の場合を除き、いかなる理由があっても払込済の入学検定料は返還しません。

- ① 入学検定料を払い込んだが三重大学に出願しなかった又は出願書類が受理されなかった場合
- ② 入学検定料を誤って二重に払い込んだ場合

〈返還請求の方法〉

三重大学HP入試情報 (<https://www.mie-u.ac.jp/exam/faculty/folder/>) に掲載されています「入学検定料の返還について」にしたがって、返還手続きを速やかに行ってください。返還には、入学検定料「振込証明書」が必要になりますので、大切に保管してください。

8. 過去の入学試験問題について

過去3年分の閲覧およびコピーが可能です。

志望する教育研究分野の教員または指導予定教員に問い合わせてください。

9. 個人情報の利用について

本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報の利用については、入学者選抜に係わる業務のほか、次のとおりです。

- (1) 合格者の住所・氏名等を入学手続きに係わる業務で利用します。
- (2) 入学手続き者の住所・氏名等を入学後の学籍管理等の修学に係わる業務並びに健康診断等の健康管理に係わる業務で利用します。
- (3) 入学手続き者の住所・氏名等を入学料並びに授業料徴収等の納付金管理に係わる業務で利用します。
- (4) 入学者選抜で取得した成績等の個人情報を、入学料免除および授業料免除並びに奨学生選考等の修学支援に係わる業務で利用します。
- (5) 個人が特定できない形で、統計処理等の付随する業務並びに本学における入学者選抜に関する調査研究で利用します。

本学が取得した個人情報は、法で定められた場合を除き、本人の同意を得ることなく、上記以外の目的で利用または第三者に提供することはありません。

10. その他

三重大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「国立大学法人三重大学安全保障輸出管理規程」を定め、外国人留学生の受入れに際して厳格な審査を実施しています。規制事項に該当する場合は、希望する教育が受けられない場合や研究ができない場合がありますので、願書の提出の前に指導教員予定者と相談をするなど、出願にあたっては注意してください。なお、外国人留学生の方は、入学時に「外国為替及び外国貿易法」を遵守する誓約書に署名していただきます。

【参考】安全保障輸出管理（三重大学）

<https://www.crc.mie-u.ac.jp/rm/export/>

専攻，講座および教育研究分野の内容等

1. 資源循環学専攻

資源循環学専攻では、持続的な社会の基盤としての生物資源を環境に配慮した方法で循環的に利用するための、技術の開発や新しい社会のデザインをすることができる人材を育成することにより、調和のとれた循環型社会の構築に貢献することを目指している。このため、生物の生命の仕組み、それらの生物を取り巻く環境、生物多様性についての学問を通して、生物資源の持続的利用に関する教育・研究を行う。

主に食料・有用物質等の生物資源利用を教育研究する農業生物学講座、主に森林資源と多様な機能を持続的に利用する方法を教育研究する森林資源環境学講座、社会経済的側面および生産環境技術的側面から生物資源利用を教育研究する国際・地域資源学講座の3つの講座から構成されている。それぞれの講座の教育・研究の内容は以下の通りである。

1-1 農業生物学講座

人類にとって農業、すなわち食料生産の営みは必要不可欠である。また、安全でおいしい農産物の供給・環境の保護・生物資源の循環においても農業が重要な役割を担っていることは言うまでもない。この活動をより持続的により良くしていくためには、対象とする動植物の生命現象を明らかにし、深く理解することが必要である。我々の講座では、遺伝育種学、作物学、園芸学、動物生産学、飼料学、植物医科学、昆虫生態学といった農学の考え方を出発点として、そこから新たに発展した生物科学を様々な視点から追求し、世界的な食料問題の解決や緑豊かな環境の維持に役立てることを目的としている。

1-2 森林資源環境学講座

世界の陸地の30%を覆っている森林は、陸上の生物現存量の90%に達する巨大な生物群集である。このため森林は、地球環境の維持に大きな役割を果たすと同時に、再生可能な資源としても重要である。さらに、国土保全、水源かん養、気候緩和などの環境を調節する機能があるばかりでなく、緑の空間が精神的な安らぎを与えるなど、森林は私たちの生活に大きく貢献している。我々の講座では、生態学、植物学、微生物学、土壌学、化学、物理学、情報科学などの講義・実習や、附属演習林における実習などを通して、多面的な機能をもつ森林の特性を理解し、自然環境との調和を保ちながら、その資源と多様な機能を持続的に利用する方法を探求してゆく。

1-3 国際・地域資源学講座

地域社会が直面している現実や取りまなくてはならない問題と正面から向き合えるように、当講座では、社会科学と自然科学の両分野から積極的な課題教育を導入している。そして、私たち人類の生命基盤である農林水産業の実態や可能性について統合的に思考する能力と、国際社会において地域の自立・発展を目指す視座、およびグローバル社会におけるコミュニケーション力の修得を通して、国際社会における地域の課題に取り組み、地域を発展させることのできる、地域リーダーとなる人材の育成を目指す。

1-1 農業生物学講座

教育研究分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
分子遺伝育種学	育種とは、人間にとって望ましい方向へ生物の遺伝的性質を改変する技術であり、品種改良と言い換えることもできる。私たちの研究室では、植物の育種にとって重要な生殖機構（受粉・受精、自家不和合性、花器官形成など）の研究を中心に、遺伝子・ゲノムレベルでの研究を行っている。また、植物への遺伝子導入技術を用いて、育種に有用な遺伝子の機能解明や遺伝子組換え植物の作出を進めている。	教 授 掛田 克行	kakeda@bio.mie-u.ac.jp
資源作物学	人間は衣・食・住を基礎とした人間らしい生活を実現するために必要な資源を農林水産業により持続的に生産している。そのうち、食糧となる食用作物や工業原料となる工芸作物などの資源作物について、それぞれの特性を明らかにし、有効な栽培・利用方法をみいだそうとする学問が資源作物学である。三重県特産品のイセイモ、ダイズ、水稻などの新品種育成や環境保全型農業生産技術の開発を通して地域の農業に貢献している。	教 授 梅崎 輝尚 ^{※1} 教 授 長菅 輝義 准教授 長屋 祐一	omezaki@bio.mie-u.ac.jp nkiyoshi@bio.mie-u.ac.jp nagaya@bio.mie-u.ac.jp
園芸植物機能学	園芸植物がもつ様々な機能を、果樹や野菜の栽培の改善に役立てるための研究を行っている。果樹では、常緑果樹の果実の発育・成熟に関する生理学的研究を行い、野菜では、環境ストレスに対する生理・生化学的反応の解明とこれらに基づいた高品質野菜の栽培法の確立を目指している。	教 授 奥田 均 教 授 名田 和義	okudat@bio.mie-u.ac.jp nada@bio.mie-u.ac.jp
動物生産学	ウシ・ブタ・ニワトリの作る肉・牛乳・卵を食べることで、人は良質のたんぱく質を摂ることができ、健康の維持ができる。私たちの研究室では「動物のホルモン分泌」や「工サの消化に重要な微生物」について調べることで、動物の生産性を高めるための基礎的な研究を行っている。動物の生産性を高めることができれば、より少ない工サで動物を飼うことができ、環境に対する負荷も減少するので、食料問題や環境問題の解決につながる。	教 授 松井 宏樹 准教授 伴 智美	matsui@bio.mie-u.ac.jp tomomi@bio.mie-u.ac.jp
草地・飼料生産学	草地で生産される飼料作物や食品製造で発生する副産物などの飼料資源を対象に、発酵飼料（サイレージ）としての貯蔵特性や反芻家畜における栄養成分の利用性について調査・研究を行う。	准教授 近藤 誠	makok@bio.mie-u.ac.jp

※1の教員の指導を希望する場合は、別途、生物資源学研究科事務室（学務担当）まで申し出てください。

教育 研究 分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
植物 医科学	<p>植物の病気を防ぐためにはその病気を正しく診断し、病原菌の種類や生態を正確に理解することが必要である。私たちの研究室は、将来、植物病害の診断、防除指導ができる人材を育てることを目標に教育を行っている。研究面では、植物病害の原因となる微生物(主に菌類)の分類、多様性、系統、進化、生態について、顕微鏡を用いた形態学的方法、遺伝子解析などの分子生物学的方法を駆使して研究を行っている。</p>	<p>教授 中島 千晴 准教授 白水 貴</p>	<p>chiharu@bio.mie-u.ac.jp shirouzu@bio.mie-u.ac.jp</p>
昆虫 生態学	<p>昆虫は農業を始めとする様々な産業の害虫として重大な損失を与えうるが、一方で花粉媒介や害虫防除などのために極めて重要な役割を果たしている。本研究室では、害虫の防除、有用昆虫の利用、昆虫群集の保全のための知識を主に生態学的に深めることを目標としている。研究テーマは多岐にわたるが、基礎的な側面からのアプローチが多い。現在研究しているテーマとしては、ミツバチ以外の野生昆虫による農作物の花粉媒介の実体と仕組みの解明、植食性昆虫の寄主範囲の進化が生じる仕組みの侵入昆虫を利用したの解明などがある。</p>	<p>教授 塚田 森生</p>	<p>tsukada@bio.mie-u.ac.jp</p>

1-2 森林資源環境学講座

教育研究分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
森林保全生態学	森林生態系の基本要素である樹木を対象に、天然生の森林群落の生物多様性や群落構造を長期間測定し、さらに、個々の樹木の生育環境を調べることで、森林生態系が維持されるしくみを解明する研究を展開する。また、樹木の DNA 分析により遺伝的多様性などを明らかにする研究を行う。	教授 木佐貫 博光 准教授 鳥丸 猛	kis@bio.mie-u.ac.jp torimaru@bio.mie-u.ac.jp
森林微生物学	森林生態系における物質循環の機構を探り、絶滅危惧植物を保全するため、森林における微生物、とりわけ植物に関連する真菌類（菌根菌）、細菌類や線虫類などの種多様性やその役割を微生物の有する形態、組織、遺伝子情報を手がかりとして生態学的な調査・研究を行う。	教授 松田 陽介 助教 北上 雄大	m-yosuke@bio.mie-u.ac.jp kitagami@bio.mie-u.ac.jp
土壌圏生物機能学	当研究室では土壌や植物に含まれる各種元素量を化学的に分析する技術を習得し、植物の生育土壌適応や各元素に対する過剰症、欠乏症発生機構に関する研究を行っている。近年では蛇紋岩土壌という貧栄養と高金属を特徴とする土壌を対象とし、ニッケル-鉄栄養に関する研究を実施しているほか、現在は博物館等の所有する植物標本を対象とした分析を開始し、日本の野生植物の「元素集積データベース」構築を目指して研究を進めている。	准教授 水野 隆文	tmizuno@bio.mie-u.ac.jp
森林総合環境学	循環型社会と共生型社会の構築という視点から、森林の持続的な利用と環境負荷の低い木材の利用方法について研究している。森林関係の各分野と連携しながら環境社会学などの人文・社会科学的な手法で研究を行う。また、木材利用により生じる環境影響を評価するライフサイクルアセスメントの手法について研究を行う。	准教授 舘上 佑樹	fuchigami@bio.mie-u.ac.jp
緑環境計画学	森林の機能評価を基礎に、森林生態系や生物多様性の保全に配慮した森林の取り扱い方法について研究している。最新の計測技術を用いて、樹木個体や林分集団の継続調査を行い、森林など陸上生態系の環境応答の評価と森林の管理計画手法の開発を行っている。「持続可能な森林経営」を目指して、地域の問題からグローバルな課題まで取り組んでいる。	教授 松村 直人 ^{※1} 准教授 松尾 奈緒子 助教 松永 寛之	nma@bio.mie-u.ac.jp naoko@bio.mie-u.ac.jp matsunaga@bio.mie-u.ac.jp

※1の教員の指導を希望する場合は、別途、生物資源学研究科事務室（学務担当）まで申し出てください。

教育 研究 分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
森林 環境 砂防学	<p>豪雨や地震、火山噴火など、様々な要因によって発生し、甚大な被害をもたらす土砂災害の発生機構を解明し、その防止・軽減につながる手法を開発・提案するための研究を行っている。自然または人為的な要因によって変化した森林環境を評価し、災害の防止・軽減の観点から適切な状態に修復することを目指した調査・研究も行っている。これらをもとに、土砂災害の防止・軽減と流域での安全な生活につながる情報を社会に提供することを目指す。</p>	准教授 沼本 晋也	numamoto@bio.mie-u.ac.jp
森林 利用学	<p>わが国の約70%が森林である。この広大な森林は、重要な資源であり、また生物の生息・生育域でもある。森林の持続的な利用と適切な管理を目指して、現地調査を行い、また数理モデル、リモートセンシング、GISなどを活用し、森林利用学、森林情報学的手法によって「木材生産作業の低コスト化」、「森林の広域的な分布・動態・機能の解明」などについて研究を行っている。</p>	教授 板谷 明美	itaya@bio.mie-u.ac.jp
木質 資源 工学	<p>古来より住宅や家具、生活用品など、我々の生活は木材と密接に関係してきた。木材は光合成によって作られるため、天然由来でありながら永続的に再生可能な有機材料である。中空状の繊維が束になった構造であるため、木材は軽量かつ高強度であり、また、高い断熱性や調湿性を有している。本研究室では、木材を有効利用する上で必要な木材知識の探求、住宅分野を中心とした快適性や技術応用の提案、現代社会における最適な木材利用に向けた公益的価値の定量化など、木材利用に基づく社会づくりを目指し研究を行っている。</p>	教授 中井 毅尚 助教 内迫 貴幸	jaja@bio.mie-u.ac.jp uchisako@bio.mie-u.ac.jp
木質 分子 素材 制御学	<p>二酸化炭素と水を原料に光合成により形成される木材は貴重な再生可能な有機資源である。本研究室は、木材を構成する木質分子素材（セルロース、ヘミセルロース、リグニン、抽出成分）を、余すことなく総合的に活用することを目標として、[1] 木材成分分離技術、[2] セルロースやリグニンの変換反応と利用、[3] 機能性木質繊維・バイオマス材料の開発、などについて研究を行う。草本リグノセルロース系バイオマス（竹、バガス、ソルガム茎など）も研究対象としている。</p>	教授 野中 寛 助教 徳永 有希	nonaka@bio.mie-u.ac.jp tokunaga@bio.mie-u.ac.jp

(連携教育研究分野・森林総合研究所)

教育研究分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
(森林総合研究所) 木質資源工学	当研究室では国内で伐期を迎えている生産林をターゲットとして、木材を有効利用する上で必要な木材の樹種識別・乾燥・切削加工などの技術開発を、最新機器を用いて行っている。また、感性工学に基づく居住者の快適性や、本邦広葉樹利用を念頭においた木質住建材の開発なども行っており、木材利用に基づく社会づくりを目指している。	連携教授 安部 久 ^{※2} 連携准教授 杉山 真樹 ^{※2} 連携准教授 鳥羽 景介 ^{※2} 連携准教授 藤本 清彦 ^{※2}	
自然共生学	自然環境を維持しながら人間活動を発展させていくための知識や技術の習得、能力開発を目標としている。連携大学院の構成研究室である当研究室では近隣の林業地や里山、都市近郊林などを対象に、森林劣化や生態系の断片化の問題、生物多様性や自然環境の保全などの課題に取り組み、自然と人間社会との望ましい関係の解明を目指している。	連携教授 神崎 菜摘 ^{※2}	

※2の教員の指導を希望する場合は、別途、森林微生物学教育研究分野・教授 松田陽介 (m-yosuke@bio.mie-u.ac.jp) まで申し出てください。

1-3 国際・地域資源学講座

教育 研究 分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
生物 資源 経済学 ※3	<p>農業, 食料, 貿易の環境や政策が変化する中で, 今日農業生産者は, 費用削減, 農産物の高付加価値化や差別化, 新技術への対応など, 競争力のさらなる強化が求められている。本研究室では, 経済学および計量経済学(統計学), マーケティング・リサーチの分析枠組により, 農産物や食品に対する消費者需要・行動の解明や, 政策・プログラムの因果効果の解明を通じて, 上記の問題に取り組み, エビデンスにもとづく政策提言を行うことを目指した教育研究活動を行っている。</p>		
循環 経営 社会学 ※3	<p>主に農業経営学, 地域社会学の視点から, 食料問題・農業問題・環境問題を考察している。農村人口の現象の原理解明, 農村型バイオマス資源利用方策の解明, 構造変動下における農業法人の特徴と企業的農業の展開の可能性解明などの課題に取り組んでいる。実際に国内外の先進的農業法人や集落営農を訪ねたり, 家庭での食料品消費の現状を調査したりするなど, 現場に出て人と触れ合う機会が多い分野である。</p>		
資源 経済 システム学	<p>海洋は人間が豊かに生活していくための様々な有益な役割を果たしている。これは, 単なる食料供給だけではなく, 適正な環境維持にも役立っている。海洋生物資源の持続的かつ有効利用のために, 私たちは, 水産物の生産・流通・消費の各段階における主体の経営, 組織および制度のあり方を検討し, 持続可能な生産システム, 流通システムの構築を目指す教育・研究を行っている。</p>	教授 常 清秀	chang@bio.mie-u.ac.jp
国際 資源 植物学	<p>国際資源植物学は, 日本を含めた世界のどこかで有用資源として栽培される植物について様々な視点から探究する学問である。食料, 飼料, 医薬品, 工業用原材料, エネルギー等に利用される植物が対象となる。私達は, そうした有用な植物を栽培する技術, 特に様々な環境条件下で植物の生産量を増加させる技術, さらに最終産物の品質改善を促す技術を研究する。</p>	教授 関谷 信人	sekiya@bio.mie-u.ac.jp
国際 資源 利用学	<p>近年, 過剰に生産性や利益を追求するあまり, 世界で草地利用・家畜生産システムに深刻な問題(草原の劣化, 生産病, 家畜福祉等)が生じている。この現状を打破し, 持続的な草地利用・家畜生産システムを確立するため, 放牧草原を構成する牧草-動物-土壌の相互作用を含んだ生態系システムの理解や, 家畜(草食動物)の飼料, 栄養, 健康性, 行動に関する研究を行う。</p>	准教授 吉原 佑	yoshihara@bio.mie-u.ac.jp

※3の研究分野を希望する場合は, 別途, 生物資源学研究科事務室(学務担当)まで申し出てください。

2. 共生環境学専攻

共生環境学専攻は、多様な生態系からなる地球生命圏の環境を理解し、保全・修復しつつ、人間活動と生態系が調和する持続的な生物生産システムの構築を目指している。このため、本専攻では、陸圏・海洋圏・大気圏が複雑に連動する地球生態システムを対象に、地域から地球そのものというようなマルチスケールをカバーする気象学・環境科学・生態科学などの基礎科学とそれらと社会システムが共存し持続的な発展を図るための環境工学や農業工学などの応用学問に根ざした教育・研究を行う。本専攻は、基礎的学問分野である地球科学を対象とする地球環境学講座，生物生態に関する知識を基に、情報処理技術を核とした環境情報の計測・制御・システム工学を手段とする環境情報システム工学講座，自然の営みと人間が直接かかわる農村や田園を保全し、健全な物質循環の場として持続的利用することを目的とする農業土木学講座の3つの講座から構成されている。それぞれの教育・研究の内容は以下の通りである。

2-1 地球環境学講座

気候変動や異常気象発生などの地球環境の変化は、大気・海洋・植生・水圏・生態圏と人間・諸動物の活動などから成る地球システムや生態環境システムと連動している。これらシステムを構成する基本構造，変動過程，共生関係や相互作用について，例えば，地球の進化，風土，地球環境保全，動植物の生理生態・生態調和や生物資源の生産に関わる人間活動について，観察・観測，実験・調査，リモートセンシング，数値解析などを援用して研究する。研究で得られた新たな科学的知見，研究を通して修得した思考力・実践力を活かし次代の文化形成と持続可能な社会構築に貢献できる人材養成に向けた教育研究を行う。

2-2 環境情報システム工学講座

人類が，他の生物と共生し環境を保全しつつ持続的な発展を図るため，我々の講座では，生物生態に関する知識を基に，情報処理技術を核とした環境情報の計測，生産システム設計と制御，複雑系に関するシステム工学を教育・研究の手段とする。すなわち，環境改善に関連する各種機械システムの設計・制御および環境共生技術について基礎原理に基づく教育・研究を行う。また，スマート農業における低環境負荷型技術を用いた生物資源の生産・加工および利用などに関する応用技術について教育・研究を行う。

2-3 農業土木学講座

当講座では，農業を営む場である農村地域を保全し，健全な物質循環の場としての豊かな農村環境を創出することを目標とした教育・研究を行っている。具体的には，自然の営みと人間が直接かかわる農村における水・土・空間の持続的で適正な利用，農村環境に関する計画・保全，農地・農用施設の整備・維持管理，地域資源の有効利用，自然災害に対する防災・減災，復旧に必要な理論と技術，地表流・地中流に関する調査と解析，農地における物質移動現象の解明と予測についての教育・研究を行う。

2-1 地球環境学講座

教育 研究 分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
気象・ 気候ダイ ナミクス	<p>猛暑や冷夏，寒波や豪雪や暖冬，異常多雨や干ばつ，北極の海氷の減少，地球温暖化。これら地球規模での異常気象や気候変動が「なぜ？」起きているのか。この「なぜ？」に対する完全な答えを人類はまだ得ていない。研究室ではこれらの解明に挑んでいる。熱帯や北極の異変が日本の異常気象に及ぼす影響などの，地球規模の気象研究と，黒潮など日本周辺の海が異常気象や台風・豪雨などに及ぼす影響などのローカルな気象の双方を，練習船を用いた海洋上の気象観測や陸上の気象観測，そして地球全体や日本周辺の大気の流れや気温の変化の数値シミュレーションによって研究を行っている。</p>	教授 立花 義裕	tachi@bio.mie-u.ac.jp
気象解析予測学	<p>気象は私達の社会経済活動と密接に関わっている。このため，例えば気象庁は，数日先までの短期予報，1週間先までの中期予報，半年後までの長期予報など，各種の天気予報を公表している。しかし，特に中長期予報の社会への応用はまだ不十分である。一方で，この天気予報作成のために世界各地で観測された過去の気象データが蓄積されている。こうした気象に関する様々なデータの解析を通じて，「気象メカニズムの理解の深化を通じた気象予測精度向上への貢献」と「気象予測データの社会への応用」を行うことが当研究室の目標である。</p>	准教授 西井 和晃	nishii@bio.mie-u.ac.jp
海洋気候学	<p>今日大気中の二酸化炭素などの増加で気温が上昇し，地球温暖化がいろいろな異常気象の原因ではないかと言われている。海洋でも北極海の海氷の減少や深層水温の上昇などの異常海洋現象が報告されている。この研究室では，関連する海洋気候変動や海洋大循環の流速，水温，塩分，密度などの変化を調べている。手法には，三重大の練習船「勢水丸」による直接海洋観測とその結果の解析，コンピュータを用いた数値モデル実験，日本海洋データセンターなどに蓄えられた長期観測データの解析などがある。大切な地球環境を守るため，皆さん，地球気候変動の核となる海洋のいろいろをいっしょに調べましょう。</p>	准教授 山田 二久次	fyamada@bio.mie-u.ac.jp

教育 研究 分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
未来海洋予測学	<p>地球の表面積の7割を占める海は、大気を暖めたり冷やしたり、水蒸気を大気に与えたりすることで、地球の気候に大きな影響を及ぼしている。また、海から取れる魚介・海藻類等は、今後増え続ける人口を支えるための重要な食糧源となると考えられている。本研究室では、気候変動・海洋生物資源という二つの観点から海の研究を進めている。数値シミュレーション、人工衛星観測等のリモートセンシング、現地直接観測など多様な研究手法を駆使し、気候系、生態系における海洋の役割を解明していくための教育研究を行う。</p>	准教授 万田 敦昌	am@bio.mie-u.ac.jp
フューチャーアース学 ※3	<p>地球規模で懸念される環境問題に対して、現在の科学は社会に「わかりやすい」情報として浸透し、将来の適応・対処を考える上で適切に扱われているか？その反省から、地球環境科学は地球生命圏の多様な環境を理解し、さらに社会と協働する“超学際的”な思考を発展させる必要がある。本研究室では、気候・地形・植生・雪氷等の環境変化が人間社会に与える影響を、現地調査を基本に、衛星データ解析、地理情報などの空間拡張の技術を用いた研究手法と重ね合わせて、近将来の時間スケール（30年）を念頭に、地球生命圏で起こりえる変化やその脆弱性・可塑性への分野横断的理解を進める教育研究を行う。</p>		
地球システム進化学	<p>“地球とともに生きる”～地球温暖化・エネルギー等の人類的課題に対し未来展望を明らかにするためには人間を含む地球をシステムとして理解することが大切である。本研究室では、(1)「これまでの地球」について、生命進化、白亜紀温暖期、恐竜絶滅、氷河期の謎、など地球史イベントを調べ、地球がいかに微妙なバランスのもとで成立しているか、を研究している。また、(2)「これからの地球」～持続的な地球システムについて、自然のエネルギーを活用した地球とともに生きる具体的なビジョンについて研究し、自治体、一般企業、市民の方々といっしょに実践的な未来ビジョン作りに取り組んでいる。</p>	教授 坂本 竜彦	tats@bio.mie-u.ac.jp

※3の研究分野を希望する場合は、別途、生物資源学研究科事務室（学務担当）まで申し出てください。

教育 研究 分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
水環境・自然災害科学	<p>水を「自然の恵み」ととらえるか、「災害を起こす脅威」ととらえるか？当分野では両方の観点から「水」を考え、良好な水環境を守るとともに水災害から人を守るための教育・研究を行っている。学問分野的には、水文学、水資源工学、河川工学、自然災害科学ということになる。水循環の中では、降水や洪水といった辺りを重視し、自然災害科学の中では、豪雨災害、洪水災害、地震（特に南海トラフ地震）に重点を置いている。</p>	教授 葛葉 泰久 ^{※1}	kuzuha@bio.mie-u.ac.jp
環境解析学 ^{※3}	<p>本研究室では、贅沢ではないが十分に自由で安全で快適な社会の実現を目指している。我々は、世界の様々な側面を評価する。例えば、安全と快適は両立しないことが多い。風を切って走るオートバイは楽しいものだが、通常より大きな危険を冒すことになる。また、地域の環境をよくすることと地球の環境を良くすることもしばしば両立しない。そして世界の様々な側面の評価に基づいて、十分に自由で安全で快適な社会のための適切な地域の管理方法を考える。本研究室では、世界の様々な側面を評価し地域の管理方法を考えるときに、景観を利用する。というのは世界の様々な側面が表出され、人々に認知されるのが景観だと考えているからである。</p>		

※1の教員の指導を希望する場合は、別途、生物資源学研究科事務室（学務担当）まで申し出てください。

※3の研究分野を希望する場合は、別途、生物資源学研究科事務室（学務担当）まで申し出てください。

2-2 環境情報システム工学講座

教育研究分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
応用環境情報学	工学的手法を用いスマート農業の実現およびバイオマス利活用に資することを目的とする。農用車両の最適制御や走行性、センサ開発を含む農業情報システム、収穫後の生産物の流通システムなど食料生産に関連する教育研究、および半炭化やバイオディーゼルなどバイオマスエネルギーに関連する教育研究を行う。	教授 福島 崇志 助教 滝沢 憲治	t-fuku@bio.mie-u.ac.jp takisawa-k@bio.mie-u.ac.jp
生産環境システム学	情報工学やシステム工学などを用いて生物生産や工業生産、環境などに関わる機械・設備システムの性能、および生物や食品の性質を先端技術などの導入により解析し、環境にやさしく安全・安心な機械・設備システムの設計と状態監視・診断技術、生物や食品の光学的特性に基づく新たな計測・診断技術、および知能ロボットシステムの教育・研究開発を行う。	准教授 鈴木 哲仁	t-suzuki@bio.mie-u.ac.jp
生物環境制御学 ※3	生物資源生産における生物と周辺環境・介在する人間等に関する情報を取得し、その環境情報を制御することにより植物工場などの最適な生物資源生産システムを構築する理論・技術を教育研究する。		
エネルギー利用工学	再生可能な生物資源の利活用と低環境負荷型食料生産システムの自動化および効率化を目的とする。植物バイオマスを利用した生分解可能なバイオマス素材の開発、オフロード車両の走行性向上と食料生産システムの自動化およびエネルギー有効利用のための農業機械の最適化に関する理論と技術について教育・研究を行う。	教授 王 秀崙※1 助教 呉 婷婷	wang@bio.mie-u.ac.jp wu@bio.mie-u.ac.jp
フードシステム学	本教育研究分野では、食料の生産から、収穫、加工、パッケージング、輸送、流通、消費、廃棄へと繋がるフードシステムを対象とし、持続可能なフードシステム、フードシステムのスマート化、ロボット開発、農林水産物・食品の品質の情報化ならびに情報の取り扱い手法に関する教育と基礎・応用研究を行う。	教授 森尾 吉成 助教 内藤 啓貴	morio@bio.mie-u.ac.jp naito@bio.mie-u.ac.jp

※1の教員の指導を希望する場合は、別途、生物資源学研究科事務室（学務担当）まで申し出てください。

※3の研究分野を希望する場合は、別途、生物資源学研究科事務室（学務担当）まで申し出てください。

2-3 農業土木学講座

教育 研究 分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
農村計画学	<p>今日、感性豊かな若い人々の多くが、農山村への関心を深め各地で個性豊かな暮らし（生業）を展開している。われわれはこれを「田園回帰」と呼んでいる。一方、農山村地域での人間活動の衰退は、農業・農村の多面的機能（土砂流出の緩和機能や地下水の貯留機能など）の低下を引き起こすと考えられている。当分野は、農山村地域での暮らしや生業を維持していくための方策を日々考究する。例えば、農業生産活動の維持、暮らしをしていくために必要な食料の確保、エネルギーの自給システムの構築である。これらをテーマに、水、農地、エネルギーの視点にたった地域計画ならびに社会技術の教育研究を行う。</p>	<p>准教授 森本 英嗣</p>	<p>morimoto@bio.mie-u.ac.jp</p>
土資源工学	<p>多方面で役立つ土資源（地盤）は、時には大きな災害を引き起こすことがある。この地盤災害から地域や人々を守るため、様々な条件下で特性が異なる土の物理的・力学的特性、並びに構造物との相互作用で発揮される諸特性を明らかにし、土資源の安全かつ適切な利用のための教育研究を行う。具体的には、地盤のせん断破壊の機構解明、補強土工法、SDGs型地盤改良、リサイクル材を用いた複合材開発応用、持続可能地盤改良、海外調査研究に関する研究などを主なテーマとしている。</p>	<p>教授 保世院 座狩屋 助教 田中 宣多</p>	<p>zakaria@bio.mie-u.ac.jp ytanaka@bio.mie-u.ac.jp</p>
水資源工学	<p>農業分野を中心とした自然界の水循環過程における降雨や蒸発散といった水文学の量的把握を背景に、持続的で社会的ニーズにかなった水資源の保全と再利用技術の構築をめざしている。</p> <p>具体的には、富栄養化などの水質を重視した貯水施設・送配水施設の設計に関する提案、水環境における生態系に配慮した調査と環境改善の提案、農村における流域治水への寄与に係る計測技術や施設設計の提案などを行い、それらの調査結果について評価方法自体も含めたことを教育研究する。</p>	<p>准教授 近藤 雅秋 助教 伊藤 良栄</p>	<p>kondo-m@bio.mie-u.ac.jp itou-r@bio.mie-u.ac.jp</p>

教育 研究 分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
農地 工学 ※3	農地土壌の工学的管理技術の開発、劣化土壌の改善、国際技術協力などに関する教育・研究を行う。とくに、農業農村における諸問題と、その対策としての農業土木技術、土地利用計画、農業農村整備、農地保全等について教育・研究を行う。		
水利 施設 工学	近年では、ダム・頭首工・水路といった農業土木施設は、激化する自然災害や老朽化のなかで様々な問題が生じている。また、情報化技術の急速な進歩に対して、農業土木施設の高度な維持管理法も模索されている。これらの問題に対応するため、農業土木施設の施工・維持管理において施設の安全性、維持管理の検査手法や適切な更新法などを研究対象として、材料試験・模型実験・調査・数値解析などの技術を用いた教育研究を行う。	教 授 岡島 賢治 助 教 長岡 誠也	okajima@bio.mie-u.ac.jp nagaoka@bio.mie-u.ac.jp

※3の研究分野を希望する場合は、別途、生物資源学研究科事務室（学務担当）まで申し出てください。

教育 研究 分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
土 壤 圏 シ ス テ ム 学	<p>土壌圏は数多くの動植物の生産・活動の場であり、土壌圏と水圏、気圏、生態圏との間の水・エネルギー・物質の循環システムは気候形成や植生の状態を強く支配している。特に、凍土地帯の循環システムは温暖化にともなう寒冷地の農業利用や気候変動へのフィードバックの見地からも重要である。土壌圏におけるこれらの循環の実際をとらえ、今後の変化を予測し、健全な循環システムの持続を目指す教育研究を行う。</p>	教 授 渡 邊 晋 生	kunio@bio.mie-u.ac.jp
土 壤 圏 循 環 学	<p>土壌・植生・大気で構成される土壌圏では、水分、化学物質、熱、ガスの流れが生じている。この土壌圏中の物質移動のメカニズムを明らかにし、移動予測モデルの構築を目指した教育研究を行う。土壌に投入された有機物は、分解されて無機化され、二酸化炭素は光合成により、また窒素成分は再び植物に取り込まれる。この土壌圏における窒素・炭素循環に対して、土壌中の水分移動、植物による吸水、栄養成分の吸収に注目したモニタリング実験と数値シミュレーションにより現象を解明する。また、土壌中の化学物質移動の研究を応用し、より精度の高い土壌中のセシウムや汚染物質の移動予測を目指す。</p>	教 授 取 出 伸 夫 ^{※1} 准教授 坂 井 勝	ntoride@bio.mie-u.ac.jp sakai-m@bio.mie-u.ac.jp

※1の教員の指導を希望する場合は、別途、生物資源学研究科事務室（学務担当）まで申し出てください。

3. 生物圏生命科学専攻

生物圏生命科学専攻は、生命科学全般に関する基礎的学理及び海洋の資源生物の育成・保全・管理に関わる学問を構築し、実践的教育を通じてそれを学生に修得させることを目指している。このため、本専攻では、個々の学生が資源生物の生命現象に関する基礎理論を生態系、群集、個体群、個体、器官、細胞、分子レベルで理解するとともに、生物科学の研究に必要な研究技法を修得するための教育・研究を行う。本専攻は、バイオサイエンス・バイオテクノロジーに関わる研究手法をもって生命現象の仕組みや分子の構造と機能を明らかにし、機能性分子や食品の開発、環境技術などに応用しようとする生命機能化学講座、海洋生物の生命機能を化学的に解明し、海洋の生物資源を有効利用することに資することを目的とする海洋生命分子化学講座、淡水域を含む水圏の生物を対象として、それらの生物の営みを多様なスケール（分子スケール～生態系スケール）で理解しようとする海洋生物学講座の3つの講座から構成されている。それぞれの教育・研究の内容は以下の通りである。

3-1 生命機能化学講座

バイオサイエンスとバイオテクノロジーの手法を用いて、食料、健康、医薬、生活、環境の広範囲な領域において生物資源を有効利用することを目的として、動物・植物・微生物の多彩な生命現象の仕組み及びこれらの生物が生産する物質の分子構造と機能を明らかにし、その成果を新しい機能性分子や食品の開発、環境技術などに応用するための理論や技法の確立を目指す。そのために、新規機能性物質の構造と機能の解析及び利用法の開発、動物や微生物の遺伝子発現機構の解明、生物情報の処理技術の開発、未利用生物資源の利用技術開発などを研究の中心として、化学的、生化学的、分子生物学的及び生物工学的な観点に立って専門的な教育と研究を行う。

3-2 海洋生命分子化学講座

多様な海洋生物の生命機能の基礎的性質を化学的に解明するとともに、魚介類、藻類、海洋微生物などの海洋の生物資源の有効利用を目指し、それらのもつ成分の分離と分析を行って、生物情報を集積する。さらにそれらを素材として生化学的手法、遺伝子工学的的手法により、機能性をもった食糧資源や化粧品などの創出を行う。当講座では、そのために必要な分析技術、生化学、分子生物学に関する教育・研究を行う。さらにあわせてこれらの技術を実践する能力を習得するための教育・研究も行う。

3-3 海洋生物学講座

海洋、河川、湖沼等をフィールドとして、生態系及び生物多様性の保全、ならびに新たな増養殖技術の開発やICTを活用したスマート水産業に関する教育・研究を通じて、水生生物の生物資源としての持続的かつ効率的な有効利用と管理に資する人材の育成を目指す。そのために、プランクトン、藻類、甲殻類、貝類、魚類、海生哺乳類など、水圏生態系を構成する多種多様な分類群を対象として、それらの生物としての営みを、遺伝子レベル、細胞レベル、個体レベル、群集レベル、生態系レベルといった多様なスケールで解明する研究を行い、得られた科学的知見や技術を実践的に応用できる能力を身につける教育を行う。

3-1 生命機能化学講座

教育研究分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
分子細胞生物学	<p>動物細胞を主な研究材料として用い、細胞レベルで起こる様々な生命現象、例えば、DNA複製、転写、DNA損傷と修復、ゲノムの安定性、細胞分化などの制御メカニズムにおけるクロマチン修飾の役割について、生化学的、分子細胞生物学的手法を用いた基礎研究を行っている。一方で、これらによって得られた知見を、バイオサイエンス及びその関連の多岐にわたる分野に応用することも目指している。また、ビタミンや食品由来の様々な機能性成分の作用や有効利用に関する研究についても展開している。</p>	教授 竹林 慎一郎	stake@bio.mie-u.ac.jp
分子生物情報学	<p>ゲノムは生物のデータベースのようなものであり、細胞はゲノムの中から必要な遺伝子情報を引き出し、タンパク質を合成することで生命機能を発揮する。本研究分野では、ゲノム解析や遺伝子・タンパク質の発現解析、タンパク質の構造と機能解析、微生物増殖に伴う発熱過程の測定といった分子生物学や生物物理化学的なアプローチとインフォマティクスを組み合わせることで、高次の生命現象を理解するための教育研究を行う。さらに、これらの情報を利活用し、合成生物学的な手法による新規機能を持つ微生物の創製や計測装置の開発を行うことで、環境、化学、エネルギー、医薬分野への産業応用を目指した教育研究を行う。</p>	教授 末原 憲一郎 准教授 三宅 英雄	suehara@bio.mie-u.ac.jp miyake@bio.mie-u.ac.jp
生理活性化学	<p>分子同士がお互いを選んで結合する分子認識が生命活動の鍵を握っている。そのような分子認識を有機化学的に捉え、一步ずつ解明していく立場から、バクテオリオフィーゼの宿主認識や医薬品の皮膚透過機構を解析し、よりよい薬や機能性素材生み出すための基礎研究を行う。そのため、フィーゼや大腸菌、皮膚をタンパク質や糖鎖、そこで反応する分子にまで細かく分けていき、それぞれの挙動を生化学的あるいは物理化学的に調べる研究に重点を置く。また、医薬品を効率的に合成する反応の開発や、食品・飲料の美味しさを解明する応用研究も行う。</p>	教授 稲垣 穰	inagaki@bio.mie-u.ac.jp
創薬化学	<p>効果が大きく、副作用が小さい薬を創ることを目的として、薬剤分子の三次元的な「形(かたち)」に着目した研究を行っている。具体的には、生物活性を示すペプチドを研究対象とし、薬剤分子の設計、有機合成、生物活性試験、三次元構造解析を行う。この一連の過程により薬剤分子の「形」を最適化する研究を通じて、創薬に必要な有機化学、生物化学、分析化学、計算化学の専門知識・技術の教育を行う。</p>	准教授 増田 裕一	masuda@bio.mie-u.ac.jp

教育研究分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
生物機能化学	<p>健康長寿, 疾病予防, 生物間あるいは生物中の情報を制御するなど生命活動を高度に維持することを目的とし, 植物や昆虫等のあらゆる生物資源や食品を対象に, これらもつ機能物質の分離分析による探索および, 機器分析による構造解析を行う。また, 機能発現機構や制御機構を生物有機化学的側面から解明する。さらに, 有用な機能物質の創成も視野にいれた技術開発を行う。このような, 生命維持のための多様な機能成分の特定から応用を考えることも含めた教育研究を行う。</p>	<p>准教授 勝崎 裕隆 准教授 岡咲 洋三</p>	<p>katsuzak@bio.mie-u.ac.jp yozo.okazaki@bio.mie-u.ac.jp</p>
生物制御生化学	<p>生命現象は, 分子の化学反応や分子間相互作用等の秩序ある分子の動的変化によって行われている。本教育研究分野では, 多様な生命現象を多種の分子の動的変化から構築されている分子システムとしてとらえ, その分子システムの成り立ちおよび制御機構を有機化学的および生化学的に研究し理解する。次にそれらの構成要素である分子あるいは新規な分子を人為的に作成し, 新しい機能を持たせる分子システムを構築する。さらに, 得られた結果を創薬や医学等の生命科学に応用・実用化する。このような観点から生命現象の理解および生命現象の応用に関する教育・研究を実施する。</p>	<p>教 授 寺西 克倫</p>	<p>teranisi@bio.mie-u.ac.jp</p>
食品生物情報工学	<p>食品や農産物の構造・かたち・色彩・味・機能などといったマクロな生物情報に関して, 分子・細胞・個体にいたる様々なレベルで解析し, 生物情報を食料の生産, 加工, 流通に最大限に活用するための生物・食品化学工学的な基礎と応用について教育・研究を行う。また, 代謝に伴い現れる様々な生物情報の定量的かつ速度論的な特性把握に取り組んでいる。さらに, 様々な光計測技術を応用して実際の食品製造や農林水産業の現場における生物プロセスに関する問題に取り組むための専門的教育と研究を行う。</p>	<p>教 授 橋本 篤</p>	<p>hasimoto@bio.mie-u.ac.jp</p>
食品化学	<p>食品には栄養, 嗜好, 疾病予防などの働きがある。本教育研究分野ではこれらの機能に関与する化合物の構造と性質, 定性・定量分析法, 合成・分解に関与する酵素の機能・応用について教育研究する。また, 有用な食品成分の効率的製造や新たな食品素材の創出を目指して, 酵素や微生物を利用した物質変換法や地域資源の有効活用法の開発に取り組む。特に, 栄養成分や機能性成分として重要である多糖やオリゴ糖などの糖質と, その関連酵素を主な研究対象とする。</p>	<p>准教授 磯野 直人 准教授 三島 隆</p>	<p>isono@bio.mie-u.ac.jp mishima@bio.mie-u.ac.jp</p>

教育 研究 分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
微生物遺伝学	<p>微生物の生理機能を解析して応用することを究極の目的としている。微生物の遺伝子解析から得られた情報をもとにして分子遺伝学的な解析を行い、分子育種による微生物の高機能化に役立てるための基礎的研究を行っている。具体的には、嫌気性菌の分子育種法の開発、遺伝子工学や代謝工学によるバイオマスからバイオエネルギーへの効率的変換に関する研究と、糸状菌の遺伝子発現制御機構の解明を通じて有用物質の効率的な生産をめざした研究を行っている。</p>	<p>教授 木村 哲哉 准教授 國武 絵美</p>	<p>t-kimura@bio.mie-u.ac.jp kunitake@bio.mie-u.ac.jp</p>
栄養化学	<p>食物に対する生体の応答を個体、組織、細胞、さらに分子や遺伝子レベルで明らかにすることを目的として研究している。具体的には、動植物・微生物から得られた未利用資源などから生体調節機能を有する成分を精製して構造解析を行い、動物実験や細胞培養の手法を用いてそれら成分の作用機作を解明することで、健康の増進や生活習慣病の予防や改善に役立てる研究を行っている。主なテーマは、豆類発酵食品の機能性に関する研究、眼疾患モデル動物に対する食品成分の改善効果、食品成分による骨代謝調節、気管支喘息モデルマウスを用いた食品由来抗アレルギー成分に関する研究、核小体タンパク質の機能に関する研究などである。</p>	<p>准教授 西尾 昌洋 助教 栗谷 健志</p>	<p>nishio@bio.mie-u.ac.jp kuriya@bio.mie-u.ac.jp</p>
食品発酵学	<p>アルコール飲料、納豆、ヨーグルトなど様々な食品が微生物による発酵により生産されている。本研究分野では、このような発酵に関与する微生物の役割や機能について、理解を深めるための教育を行う。また分子生物学、細胞生物学、微生物遺伝学の手法や化学分析手法により、微生物の発酵代謝産物や代謝機能を解析し、発酵微生物の活用に向けての研究を行う。これにより発酵食品開発や微生物活用に貢献できる人材を育成する。</p>	<p>教授 荻田 修一^{※1} 准教授 梅川 碧里</p>	<p>karita@bio.mie-u.ac.jp midoriumekawa@bio.mie-u.ac.jp</p>

※1の教員の指導を希望する場合は、別途、生物資源学研究科事務室（学務担当）まで申し出てください。

(連携教育研究分野・太陽化学株式会社)

教育研究分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
食品機能学	<p>食品は、栄養補給（1次機能）や嗜好性（2次機能）以外に、健康を維持・増進する生体調節機能（3次機能）も併せ持っている。現在、機能を有する食品や成分の研究が進み、機能性食品市場を形成している。本研究分野では、食品の3次機能を中心に、それを担う成分の探索、機能評価、生産・加工、機能性食品市場などについて討議する。また、ポリフェノール類、機能性糖類やアミノ酸類、抗酸化性物質など、具体的な機能性素材の生体における意義についても議論する。</p>	<p>連携教授 小関 誠^{※2}</p> <p>連携教授 石原 則幸^{※2}</p> <p>連携准教授 小林 純也^{※2}</p>	

※2の教員の指導を希望する場合は、別途、栄養化学教育研究分野・准教授 西尾 昌洋(nishio@bio.mie-u.ac.jp)まで申し出てください。

3-2 海洋生命分子化学講座

教育 研究 分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
海洋 生物 化学	<p>海という特殊な環境に生息する生物は、特異な生体成分を含み、興味深い生命現象を営む。本研究分野では特に海産の大型藻類と軟体動物に着目し、ヒトの健康維持に寄与する成分の探索とその機能性や細胞内動態の解明を目指す。また、ゲノム情報などを活用して、大型藻類と軟体動物の生長・代謝特性や環境応答・適応の分子機構、さらには産業的有用品種の形質発現の分子機構の解明を目指す。これら研究活動を通して、海洋生物資源の高度有効利用，持続的安定生産，維持・保全に関わる学理と技術の教育研究を行う。</p>	<p>教授 柿沼 誠 助教 五十嵐 洋治</p>	<p>kakinuma@bio.mie-u.ac.jp igarashi@bio.mie-u.ac.jp</p>
水圏 生物 利用 学 ※3	<p>水圏に棲息する魚介類を対象とし、それらの生産する有用物質の抽出解析並びに未利用資源の開発を行うとともに、遺伝子操作を用いた魚類の品種改良や微生物による生合成のための原理と技術を研究する。また、化学物質と生体の相互作用を分子レベルで解明し、その作用機序を細胞から生体レベルで明らかにするための技術やシステム生物学に関する教育研究を行う。</p>		
水圏 材料 分子 化学	<p>水圏には多様な生物が棲息している。当研究室では、これら水圏生物から美容（美白，光皮膚老化）やガン，骨粗鬆症，アレルギーといった生活習慣病の予防・改善に寄与する成分を探索するとともに、科学的根拠に基づいた作用機序の解明に取り組んでいる。また、機能性食品や化粧品への応用展開を迅速にするために非コードRNAや細胞が分泌する膜小胞を利用した機能性成分のスクリーニングのための新しい評価技術の開発にも取り組んでいる。このように、本研究分野ではヒトの「生活の質」の向上に資する素材開発を目的に細胞生物学や実験動物学，栄養学の視点から教育研究を行う。</p>	<p>准教授 伊藤 智広</p>	<p>titoh@bio.mie-u.ac.jp</p>
生物 物性 学	<p>様々な環境下に生息する水棲生物の組織・器官で働く生体分子には、陸棲の動植物のものとは物理化学的な性質が大きく異なるものが数多く存在する。本研究分野では、主に水棲動物の筋肉を対象とし、比較生理学および比較生化学的な観点から、その分子論的な特性を明らかにすることに取り組んでいる。その成果は、水棲生物に関する新たな生物学的知見の獲得のみならず、食品としての魚介類の品質保持技術や加工技術の開発にも有益となる。本研究分野では、水産食品を対象として、水棲生物の特性に基づいた食品科学に関する教育研究を行う。</p>	<p>教授 大井 淳史</p>	<p>ooi@bio.mie-u.ac.jp</p>

※3 の研究分野を希望する場合は、別途、生物資源学研究科事務室（学務担当）まで申し出てください。

教育 研究 分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
生体高分子化学	<p>海洋および陸水に生息する魚貝類の多様な形態と機能が陸上生物のそれらと異なるのは、水中の環境に馴化するために進化した結果であり、遺伝子やそれから機能発現したタンパク質など生体高分子の相違に起因する。これらの遺伝子やタンパク質などの生体高分子の情報、構造および機能を分子レベルで解明し、有効利用に資することを目的に、その学理と技術を教育研究する。</p>	<p>教授 船原 大輔 助教 水谷 雪乃</p>	<p>funabara@bio.mie-u.ac.jp mizutani@bio.mie-u.ac.jp</p>
海洋微生物学	<p>微生物（細菌類，真菌類，単細胞藻類）を海洋における有用生物資源の一つとして位置づけ、有用微生物の探索と単離を行い、生化学的・生理学的・生態学的特性の解析ならびに有効活用するための理論と技術について研究する。また、食品微生物の制御技術の根幹をなす洗浄および殺菌技術の最適化を目的として、界面化学的な解析を軸に多面的な教育研究を行う。</p>	<p>准教授 田中 礼士</p>	<p>tanakar@bio.mie-u.ac.jp</p>
水産物品質学	<p>食品としての魚介類における品質保持・向上のため、生体内の鮮度保持に関連する酵素や血液成分の生化学的物質，魚類由来の糖タンパク質やオリゴ糖の機能と構造を科学的に究明し、水産物の品質および食品衛生に関する教育研究を行う。また、主に水産資源の高付加価値化に資する，産業上有用なタンパク質や化学品原料を対象とし，その生産に関わる遺伝子の探索および機能解析，物質生産に関して，分子生物学および生物工学を基盤とした教育研究を行う。</p>	<p>教授 福崎 智司 准教授 岡崎 文美</p>	<p>satoshi_fukuzaki@bio.mie-u.ac.jp okazaki@bio.mie-u.ac.jp</p>
海洋食糧化学	<p>海洋生物を構成する生体分子，特に海藻由来のフェノール性化合物や色素成分，希少糖，多糖類，脂質など有用有機化合物の探索ならびに三次機能成分としてそれらの生産と利用・開発を目指した教育・研究を行う。ターゲットとなる有機化合物について，質量分析装置による構造解析や代謝物の測定，モデル生物（線虫）と動物培養細胞を用いた生理機能の評価など食品分析化学と食品機能学に関する教育・研究を行う。</p>	<p>准教授 柴田 敏行</p>	<p>shibata@bio.mie-u.ac.jp</p>

3-3 海洋生物学講座

教育研究分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
生物海洋学	<p>海洋生態系を支える重要な一次生産者である植物プランクトンの個体群動態と環境要因との関係について、浮遊生物学および生物海洋学的な視点から教育研究を行っている。現在取り組んでいる主なテーマは次の通りである。</p> <p>(1) 植物プランクトンの群集構造に関する研究 (2) 植物プランクトンの個体群形成機構に関する研究 (3) 有害・有毒プランクトンの生理生態学的研究</p>	教授 石川 輝	ishikawa@bio.mie-u.ac.jp
水族生理学	<p>魚類および頭足類の視覚機能特性(視力、視軸、動体認知力、波長感度など)を網膜組織解析や視物質遺伝子解析により解明し、彼らが様々な水深・水系の光環境に適応して多様性を形成した仕組みを理解する。また、練習船・勢水丸を利用した海洋環境調査を行う。これらの実験・調査で得られる結果や情報を理論的・実践的な知識に醸成させ、魚類・頭足類の行動生態の理解に結びつけることにより、漁場の保全や整備、漁具開発、増養殖技術等への応用を図る。ラボとフィールドを往来する教育研究を行い、多角的視点による水産に関する問題の解決を目指す。</p>	准教授 宮崎多恵子	taeko@bio.mie-u.ac.jp
藻類学	<p>沿岸域における重要な一次生産者である海藻と海草の持つ生理及び生態を研究する。沿岸生態系において藻場が果たす役割と機能に関する基礎的知見を得ること、磯焼け海域から藻場を回復すること、そして海藻の増養殖手法を開発することに焦点を当てている。そして、海水の温度、光量、光質、栄養塩、藻食動物等の環境が海藻の生育繁殖に与える影響を明らかにするために、野外調査と実験室での培養実験を行い、海藻・海草群落に関する沿岸環境の保全について教育研究を行う。</p>	教授 倉島 彰	kurasima@bio.mie-u.ac.jp
浅海増殖学	<p>浅海域は太陽からのエネルギーを基礎生産の源とした海洋における主要な生物生産活動の場である。本教育研究分野では、浅海域に生息する多種多様な水圏生物の生理・生態・増殖メカニズムを解明し、浅海域の高い生産性を利用した食料生産の場としての有効活用と、その持続的な発展を阻む様々な問題の解決を目的とした教育研究を行う。</p>	教授 松田 浩一 教授 筒井 直昭 助教 山本 康介	hmatsuda@bio.mie-u.ac.jp tsu2@bio.mie-u.ac.jp y-kosuke@bio.mie-u.ac.jp

教育 研究 分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
先端養殖管理 学	健全な養殖魚介類の安定的生産を阻害する諸問題を先端の科学技術を応用して解決するための教育・研究を行う。最も注目すべき病害の問題に対しては個体、細胞および分子のレベルから病態や病原因を総合的に解析し、有効な診断法、治療薬および予防法を開発するとともに、それらを利用した病害防除に関する研究を行う。	教授 一色 正 准教授 北村 真一	issniki@bio.mie-u.ac.jp kitamura@bio.mie-u.ac.jp
魚類増殖 学	淡水魚を中心とした水生生物について、魚類相や、食性・成長・繁殖などの生活史や生態に関する研究を行い、それらの生物の基礎的生物情報を集積する。それを元に、在来種の生息に適した環境や減少要因の解明、外来種の生物群集に与える影響評価や駆除・管理手法の開発を行う事によって、魚類資源の増殖および水域の生物多様性保全に寄与する教育研究を行う。	准教授 淀 太我	tyodo@bio.mie-u.ac.jp
海洋生態 学	海と陸が会う海岸域は多様な海洋生物を育む重要な場所である。海洋生態学教育研究分野は、干潟、砂浜、塩性湿地、感潮河川、藻場などの海岸域に生息する生物の生態が研究対象である。特に絶滅危惧種や外来種的生活史や個体群動態の研究成果を元に保全の方策を研究している。	教授 木村 妙子	k-taeko@bio.mie-u.ac.jp
水圏資源生 物学	沿岸域における水産資源の持続的利用のために、水産対象種や、それらを支える様々な生物の生態に関する教育・研究を行う。現在取り組んでいる主な研究テーマは、1) 増養殖対象二枚貝類の好適な餌料環境の解明、2) 藻場に生息する小型甲殻類の摂餌戦略、3) 珪藻類の被食防御戦略、4) ヒザラガイ類や巻貝類の摂餌生態、などである。	助 教 伯耆 匠二	houki@bio.mie-u.ac.jp
水圏分子生 態学	水圏分子生態学教育分野では、「DNA 情報から生物の多様性（生態、形態、行動）の謎と歴史（適応・進化）を探る」を目的として、魚類を中心とした脊椎動物、軟体動物を対象に研究を行っている。具体的内容としては、 1) 生物進化ならびに適応様式の解明 2) 外来種の定着成功のメカニズムの解明 3) 希少種保護に向けた知見の収集 4) 分子情報を用いた育種技術の開発が挙げられる。	教授 河村 功一	kawa-k@bio.mie-u.ac.jp

教育研究分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
海洋個体群動態学	水産生物の個体群動態を明らかにするとともに、管理・保全するための理論と応用に関する教育研究を行う。現在、(1)我が国の沿岸沖合資源の評価や管理、(2)水産資源学の数学的理論、(3)溪流魚の資源管理、などについて教育研究を行っている。	准教授 金岩 稔	kanaiwa@bio.mie-u.ac.jp
応用行動学	水生生物の行動計測や生息域の環境観測をもとに、行動生態と環境との関連を明らかにする。具体的には、魚類や甲殻類の行動計測装置の開発、生息環境の把握、実験室内での生息環境の再現、行動の周期性解析、感覚器官の能力評価、環境変化に対する適応能力の評価などである。その応用として水産資源の効率的かつ持続可能な漁獲・利用に関する教育研究を行う。	准教授 森川 由隆	morikawa@bio.mie-u.ac.jp
水産応用情報学	持続可能な水産業と、それを支える沿岸域の環境保全を目的とし、ビッグデータや情報通信技術を漁業・養殖業や環境モニタリングに応用する教育・研究を行う。ICTを活用した水産生物資源のモニタリングや漁業の基盤となる沿岸環境(水質, 波, 流れ, 地形)の計測技術といった、漁業・海洋のDX(デジタルトランスフォーメーション)に係る研究テーマに取り組む。	准教授 岡辺 拓巳	okabe@bio.mie-u.ac.jp
鯨類学	海洋の高次捕食者である鯨類について、野生および飼育個体を対象として、その生理、生態、行動などに関する基礎的研究と教育を行うとともに、その応用として、野生鯨類の保全や人間活動による影響の軽減、水族館等における飼育個体の繁殖推進などについて取り組む。	教授 森阪 匡通 准教授 船坂 徳子 助教 八木 原風	chaka@bio.mie-u.ac.jp funasaka@bio.mie-u.ac.jp yagi@bio.mie-u.ac.jp

(連携教育研究分野・水産技術研究所)

教育研究分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
発生・代謝機能解析学	効率的で持続可能な養殖システムを確立することを目的に、分子生物学的手法を駆使して水生生物の発生、繁殖、代謝のメカニズムを研究する。また、ゲノム情報や最新の発生工学的手法を用いた新たな育種、繁殖技術および餌の開発を行う。	連携教授 藤原 篤志 連携教授 松本 才絵 連携准教授 村下 幸司	fujiwara_atushi09@fra.go.jp matsumoto_toshie85@fra.go.jp murashita_koji97@fra.go.jp